

御嵩町観光基本計画

MITAKE TOURISM BASIC PLAN





日本一、中山道に身を染められる「宿場町」

暮らしてよし、歩いてよし、休んでよし。
—時代を超えて日本の古道の暮らしを体験できる町—



東西に中山道が横断し、中山道とともに暮らしてきた御嵩町。

時代とともに変化しているが、その暮らしに脈々と残る中山道の歴史文化。

従来からの観る観光ではなく、感じる観光へ。

中山道の暮らしや歴史文化に身を染め、

それらを知ること未来を考える場となる。

それが御嵩町の目指す新しい観光の形です。



四明
朱子
卷一
目錄

卷二
目錄

ごあいさつ



観光振興は、地域内への経済効果や幅広い雇用創出、移住定住の促進など多くの効果が生まれることから、日本の将来を担う産業のひとつとして期待されています。

御嵩町では、平成28年3月策定の第5次総合計画において「多くの人が行き交うまち」を目標の一つとし、観光客の増加や交流、にぎわいの創出を目指しています。

近年は中山道をウォーキングする外国人観光客が増加しており、また平成28年10月には町内の中山道のうち謡坂石畳など3.6kmの区間が国の史跡に認定されるなど、町の観光資源が国内外から注目を集めています。

さらに1200年の歴史を誇る古刹「願興寺」は、本堂のほか本尊薬師如来像を中心とする24体の仏像が国重要文化財に指定されており、本堂の修復も予定されるなど、中山道も含めこれら観光資源の活用が望まれています。

国や県においても、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた全国的な観光振興機運の高まりに合わせ、多くの施策が展開されており、観光振興を進める環境が整いつつあります。

このような状況を踏まえ、この度、平成29年度から5年間の御嵩町観光基本計画を策定し、『日本一、中山道に身を染められる「宿場町」』をコンセプトに掲げ、「観る」観光から「感じる」観光を目指します。

本計画の遂行には地域の皆様の協力が不可欠です。地域の皆様のご参画、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に計画の策定にあたり、ヒアリングなどでご協力いただきました町民の皆様、また関連事業者の皆様、並びにアンケートや各種調査にご協力いただいた観光客の皆様など、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

平成29年3月
御嵩町長 渡邊公夫





御嵩町観光基本計画:目次

1. 観光計画策定にあたって	
1-1. 計画策定の目的	9
1-2. 計画の期間	9
2. 観光基本計画策定の背景と基本方針	
2-1. 観光産業の可能性	11
2-2. 既存計画の整理	12
2-3. 国・県の計画や政策	16
2-4. 策定基本方針	20
3. 市場の動向	
3-1. 観光客数	23
3-2. 訪日外国人の旅行傾向	24
3-3. 岐阜県の観光統計	27
3-4. 新しい働き方の傾向	32
4. 現状調査	
4-1. 位置	35
4-2. 人口推移	36
4-3. 産業構造	37
4-4. 町民所得	37
4-5. 観光客数	38
4-6. 外国人観光客	39
4-7. 地域プレイヤーヒアリング	44
4-8. 地域検討ワークショップ	45
5. 地域資源	
5-1. 地域資源	49
5-2. 地区別特性	50
5-3. 既存イベント	51
5-4. 特産品	52
5-5. 名鉄広見線	53
5-6. 広域観光圏	55
6. 観光基本計画の検討に向けて	
6-1. 現状・課題の整理と今後の方向性	57
7. 観光基本計画	
7-1. 基本コンセプト	59
7-2. 顧客ターゲット	60
7-3. ポジショニング	61
7-4. 将来の目標設定	62
8. 計画推進施策	
8-1. 施策体系	65
8-2. ゾーニング計画	66
8-3. 各地区の整備方針	67
9. 重点整備エリア	
9-1. 町の軸整備	69
9-2. 拠点エリア整備	69
10. 計画推進方針	
10-1. 推進方針	71
10-2. 官民連携の役割分担	72
10-3. 中間支援組織	72
10-4. 推進スケジュール	74

1-1. 計画策定の目的



御嵩町は岐阜県の南部に位置し、豊かな自然環境や、交通の利便性のよさなど、生活環境として多くの魅力があります。観光の面では、中山道の宿場町「御嶽宿」・「伏見宿」や景勝地である国定公園「鬼岩」があり、その周辺には歴史的建造物や文化財が存在し、観光産業を推進していく可能性が秘められています。こうした観光資源を今後どう活用して滞在型観光につなげていくか、総合的・効果的な観光振興策が求められています。

現在、御嵩駅を起点とする中山道周辺では、外国人観光客の来訪が増えており、また隣接する八百津町においても世界記憶遺産候補「杉原千畝・命のビザ」により、国内外から関心を集めていることから、連携を強化し、外国人をターゲットとした広域的な観光戦略を立てる必要があります。

一方、御嶽宿内には宿泊施設が無く、日帰りの観光客しか受け入れられないのが現状であり、空き家・空き店舗も増え続け、景観・活気を損ねる状況にあります。さらに現在、これらの観光地を含めた

周辺市町の観光地域づくりに必要な関係者の合意形成、各種データ等の収集・分析に基づいた戦略の策定、戦略に基づく地域のマネジメントやブランディング、プロモーションを行う組織の確立、これらを推進するための人材育成施策などが未整備でした。

こうした課題解消のため、客観的なデータや指標を用いてマーケティングやマネジメントを行い、地域内の官民協働や広域的な地域連携により、魅力にあふれ、かつ観光地域の将来にわたる効率的・有効的な計画づくりを行いました。

本計画に基づく、観光客増加と観光客の消費拡大によって、御嵩町経済の活性化と、観光振興を通じた他圏域との交流活発化、また観光サービス活動を通じて町民の自信や地域愛着心の向上を図ります。さらに、観光事業者に限らずより多くの町内事業者及び町民が、御嵩町の観光振興に関与できるように工夫し、観光振興による本町の活性化を目指します。

1-2. 計画の期間

観光基本計画の計画期間は、2017年度(平成29年度)から、2021年度(平成33年度)までの5年間とします。



2

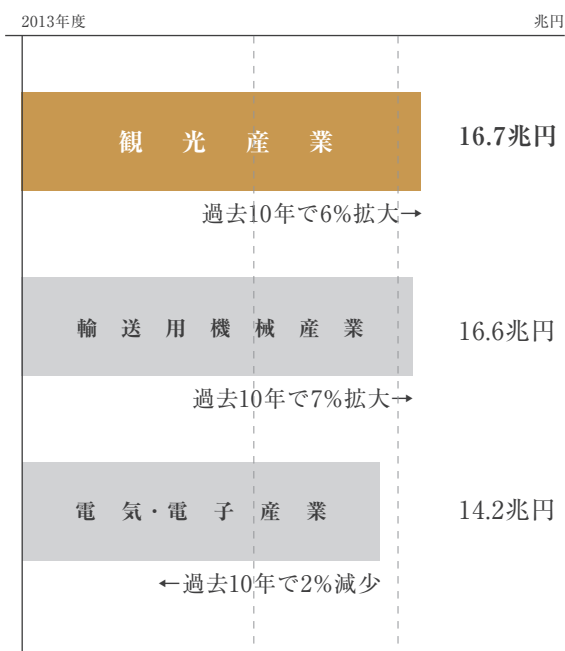
2. 観光計画策定の背景と基本方針

2-1. 観光産業の可能性



日本の観光産業が、国内総生産（GDP）に占める割合は3.5%と半導体や家電を超える規模になっています。2013年度の観光産業はGDPベースで16.7兆円に達するとされており、その規模は、輸送用機械産業（自動車など）16.6兆円とほぼ同額、電気・電子の14.9兆円を2兆円以上も上回っており、日本の主要産業といえる規模になっています。今後の成長可能性についても、過去10年間で電気・電子産業のGDPが累積2%減少する中、観光産業は、輸送用機械産業（7%増）と同等の6%拡大しています。また、新しい産業が発達しづらい地方においては、観光産業が次世代の有望な成長産業と考えることができます。そのような状況の中、中山道や御嶽宿など歴史的資源を持った御嵩町は条件的に有利な状況にあるといえます。

御嵩町の今後の観光を考えていくにあたっては、観光を「次世代に向けた成長産業」と捉え、観光産業の可能性を検討していく必要があります。



注記：文中の数値は日本経済新聞の記事（「観光、雇用効果大きく GDP の 3.5%、自動車産業に匹敵」2014年6月10日）による。

2-2. 既存計画の整理

観光計画の検討に向けて、御嵩町のまちづくりの指針となる「御嵩町第五次総合計画（平成28年3月策定）」と、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策・具体的な取り組みをまとめた「みたけ創生!!総合戦略（平成27年10月策定）」の2つの観光基本計画に関連する計画の計画内容や数値目標を整理しました。

（1）御嵩町第五次総合計画

御嵩町の行政計画の最上位計画となる「御嵩町第五次総合計画」の概要は下記の通りです。本計画の方向性を踏まえながら、観光基本計画の検討を行います。

概 要

趣 旨	「行政計画の最上位計画」となる「新しいまちづくりの指針」
計 画 期 間	基本構想：目標年次 平成28年度（2016）～平成37年度（2025）の10年間
	基本計画：計画期間 平成28年度（2016）～平成37年度（2025）の10年間
	中間年次において計画を再点検し、見直しを行う
	実施計画：計画期間3 ヶ年 毎年計画を見直すローリング方式を採用する

基本構想

まちづくりの理念	「参加のまちづくり」から「協働のまちづくり」へ
町 の 将 来 像 (キャッチコピー)	つながる・あふれる・輝くまち
目 指 す ま ち の 姿	①良好な環境を誇りとするまち 方向性1-1. みどりや水を守り育てる 方向性1-2. 環境にやさしいまちを実現する
	②笑顔で育ちあうまち 方向性2-1. 未来を担う人材を育てる 方向性2-2. 学び合いの中から人材を育む
	③みんなが支えあうまち 方向性3-1. 住民自治活動を活発化する 方向性3-2. 誰もが安心して暮らせるまちにする 方向性3-3. 暮らしの安全を確保する 方向性3-4. 町民の健康づくりを支援する
	④多くの人が行き交うまち 方向性4-1. 地域資源を生かし、交流の機会を増やす 方向性4-2. 地域の魅力を効果的に発信する 方向性4-3. 魅力的な産業創造に挑戦する
	⑤暮らしてみたいくなるまち 方向性5-1. 暮らしの安全・安心を支える 方向性5-2. まちの個性と地域文化の創造 方向性5-3. まちの特性にあわせた都市基盤を整備する

基本計画(観光基本計画に関連する項目・数値目標を抜粋)

【方向性4-1】 地域資源を生かし、交流の機会を増やす	基本施策	地域資源を生かし、交流の機会を増やす
	単位施策	・観光魅力の向上 ・おもてなしの充実 ・地域振興イベントの開催
	成果指標	・観光入り込み客数(岐阜県観光入込客数統計調査) 平成27年度51万人 → 平成33年度53万人 ・外国人観光客数(わいわい館入館数) 平成27年度250人 → 平成33年度400人 ・みたけのええもん認定数 平成27年度13品目 → 平成33年度18品目
【方向性4-2】 地域の魅力を効果的に発信する	基本施策	地域の魅力を効果的に発信する
	単位施策	・タウン・プロモーションの推進 ・地域情報の発信強化
	成果指標	・子どもや若者にとって住み続ける魅力があると回答する人の割合 平成27年度18.4% → 平成33年度UP↑ ・町外者にとって「住んでみたい」、「来訪したい」というイメージがあると回答する人の割合 平成27年度6.2% → 平成33年度UP↑
【方向性4-3】 魅力的な産業創造に挑戦する	基本施策	魅力的な産業創造に挑戦する
	単位施策	・将来につなげる農林業の推進 ・魅力的な商業・サービス業の育成 ・工業団地の整備と企業誘致 ・起業支援と雇用機会の創出
	成果指標	・新規就農者数(新規就農者支援事業を通じた農業定着者数) 平成27年度－ → 平成33年度1人 ・商品販売額 平成27年度141億円 → 平成33年度150億円 ・製造品出荷額 平成27年度1,106億円 → 平成33年度1,200億円 ・工業団地における町内居住従業員率 平成27年度21% → 平成33年度23%以上
【方向性5-2】 まちの個性と地域文化の創造	基本施策	まちの個性と地域文化の創造
	単位施策	・景観の保全 ・歴史文化の保全と継承 ・地域文化の創造
	成果指標	・景観づくりに関する満足率 平成27年度14.2% → 平成33年度UP↑ ・歴史文化に関する講座参加者率 平成27年度97人 → 平成33年度150人以上 ・地域文化に関わる企画展・特別展入場者数 平成27年度5,326人 → 平成33年度5,600人以上
【方向性5-3】 まちの特性にあわせた都市基盤を整備する	基本施策	まちの特性にあわせた都市基盤を整備する
	単位施策	・公共交通の利用促進と体系の見直し
	成果指標	・御嵩町自主運行バスの利用者数 平成27年度25,923人 → 平成33年度29,000人以上

(2) みたけ創生!!総合戦略の概要

まち・ひと・しごと創生の実現に向けた戦略となる「みたけ創生!!総合戦略」の概要は下記の通りです。
本戦略の方向性を踏まえながら、観光基本計画の検討を行います。

概 要

趣 旨	「御嵩町人口ビジョン」で示している本町の人口を取り巻く現状や課題、今後の方向性を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた効果的な施策や具体的な取り組みをまとめたもの。
対 象 期 間	平成27年度(2015年)～平成31年度(2019年)の5年間

戦略の方向性

戦 略 の 視 点	みたけ創生に向けた“チャレンジ”	
戦略のめざすもの	○町の中に向けては <御嵩町は「元気」!> →ここに住みたい、ここで子どもを育てていきたいと思ってもらえるまちをめざす。 ○町の外に向けては <御嵩町にくと「面白い」!> →ここに来てみたい、住んでみたいと思ってもらえるまちをめざす。	
御 嵩 町 人 口 ビジョンから導き 出される方向性	人口維持・拡大に向けた今後の方向性 ・子ども・子育て支援、母子の健康の確保、仕事と子育てを両立できる職場づくりなどを総合的に進める。 ・雇用の受け皿の拡大、移住定住を促進するシティプロモーション等を推進する。 <人口の将来展望> 2040年に約15,800人、2060年に約13,600人の人口を維持・確保	
施 策 体 系	【基本目標1】 環境のまちで元気!	1-1:環境モデル都市を進める人づくり・場づくり 1-2:クリーンで安全・安心なエネルギーの供給 1-3:みんなで進める持続可能な森づくり 1-4:交通ネットワークでつなげる人の“わ”の拡大 1-5:一人ひとりが取り組む環境保全活動の促進
	【基本目標2】 ひとが元気!	2-1:健やかに産み育てるための環境づくり 2-2:子どもの「生きる力」を育む教育の充実 2-3:地域で子ども・子育て家庭を見守り・育む環境づくり 2-4:仕事と子育ての両立に向けた支援の充実
	【基本目標3】 しごと・経済が元気!	3-1:産業・創業の振興と雇用の創出 3-2:未来につなげる農業づくり
	【基本目標4】 モノ・コトが元気!	4-1:「みたけ暮らし」の価値の磨き上げによる、住みたい、住み続けたい環境の整備 4-2:まちのオリジナリティを活かした観光振興
	【基本目標5】 暮らしが元気!	5-1:暮らしの安全・安心の確保 5-2:地域で安心して元気に暮らせるための環境づくり

総合戦略(観光基本計画に関連する項目・数値目標を抜粋)

【基本目標1】 施策4 交通ネットワーク でつなげる人の “わ”の拡大	<施策概要・目的> ・公共交通機関の利便性の向上や利用促進による環境配慮・交流の活性化 ・環境に配慮した次世代自動車の普及や自転車の利用促進による、過度にクルマに頼らないまちの実現 <KPI> ・公共交通(自主運行バス)の利用者数 平成26年度25,923人 → 平成31年度29,000人 ・レンタサイクルの利用者数 平成26年度279人 → 平成31年度418人 <具体的な事業> ・地域公共交通ネットワークの充実と利用の促進 ・自転車を活用したエコなまちづくりの推進
【基本目標4】 モノ・コトが元気！	<総合戦略でめざす方向性> ・本町への新しい人の流れをつくるために、「人を呼び込む」施策、呼び込んだ人に「留まってもらう」施策の両面から進める。 <KPI> ・移住者数(相談窓口経由) 平成26年度0人 → 平成31年度20人 ・観光入込客数 平成26年度51万人 → 平成31年度53万人
【基本目標4】 施策1 「みたけ暮らし」の価値の磨き上げによる住みたい、住み続けたい環境の整備	<施策概要・目的> ・御嵩町での暮らしの価値の明確化と磨き上げ、情報発信を展開することで、人を呼び込む。同時に住み続けてもらう居住環境の整備を進める。 <KPI> ・空き家の改修支援件数(5年間累計) 平成31年度10件以上 <具体的な事業> ・移住定住の促進 ・空き家等対策の推進
【基本目標4】 施策2 まちのオリジナリティを活かした観光振興	<施策概要・目的> ・観光地として選ばれるオリジナリティの見極めと情報発信。 ・戦略的な観光振興と滞在型観光に向けた交流拠点施設整備。 ・町の特産品のブランド化 <KPI> ・古民家を活用した交流拠点施設数 平成26年度0か所 → 平成31年度1か所 ・御嶽宿わいわい館の入館者数(年間) 平成26年度9,991人 → 平成31年度12,000人 <具体的な事業> ・国内外からの観光誘客 ・地域消費拡大に向けた「みたけのええもん」等地域資源の活用 ・中山道の宿場町等の再生 ・観光及び災害用フリー Wi-Fi活用・整備の推進

2-3. 国・県の計画や政策

(1) 歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース

政府(首相官邸)が、菅官房長官を筆頭に関係閣僚等と共に「歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース」を2016年8月に立ち上げました。その目的は、御嵩町のような歴史的資源を有する地域の観光・地域振興にむけた今後の取り組みの方向性を検討し、次年度(平成29年度)の政策に反映させるためです。2016年12月にはその中間とりまとめが発表、2017年1月には内閣官房に「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」が設立されました。



中間とりまとめでは、実現に向けた下記の4つの課題について、政府として解決策を提供(次年度の関係各省庁の政策に反映)することになっています。

①人材	・ 民間を中心としたピークル(中間事業者)の起業促進と支援 ・ 地域からの相談や要望にワンパッケージで対応する体制の構築 ・ 専門家派遣などの支援・ノウハウ提供
②自治体との連携・ 情報発信	・ 市町村長への本取り組みの重要性・有用性の情報提供 ・ DMO候補法人への相談窓口や情報の提供 ・ 古民家ステイのブランド化
③金融・公的支援	・ REVIC(政府系地域活性化支援ファンド：地域活性化支援機構)や地域金融機関、クラウドファンディングなど資金調達支援 ・ 歴史的資源の活用における公的支援
④規制・制度改革	・ 建築基準法、市街化調整区域(都市計画法)、旅館業法の再検討と規制・制度の改善



政府の目標としては、東京オリンピック・パラリンピックの開催される2020年までに「全国で200地域の取り組みを目指す」とされています。タスクフォースの目指すべき方向性は、御嵩町の目指すべき本計画の方向性に合致しているため、計画の推進に向けてはタスクフォースの動向を確認・連動する必要があります。

その中でも、事業推進の担い手となる地域の「ビークル(中間事業者)」の必要性が叫ばれており、事業推進にあたってはビークルの起業・運営支援が重要となっています。

「歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チーム」について①

民間を中心とした地域の観光まちづくりの取組を、異業種からなるワンセットの専門家チームが、継続的に伴走し、地域毎にオーダーメイドで支援

2020年までに全国200地域での取組を目指す

このため、新たに（2017年1月30日から業務開始）

- 民間人材による「歴史的資源を活用した観光まちづくり専門家会議」を設置
- 内閣官房に「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」を設置し、意欲ある地域の相談・要望に国がワンパッケージで対応し、官民が連携した支援体制を構築

歴史的資源を活用した観光まちづくり官民連携推進チーム

歴史的資源を活用した観光まちづくり専門家会議
(タスクフォース有識者を中心に構成)

歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室
(内閣官房(運営協力:観光庁、農水省))

- 地域からの相談に関する支援等のワンパッケージ対応
 - 現場における課題やニーズの共有
 - 歴史的資源の再生・活用事例集の策定
 - 支援メニュー集の策定
 - 専門人材・企業リストの策定
 - 規制・制度の改革の促進
- 等

相談

支援

地域の取組

まちづくり組織の組成

まちづくり計画の策定

物件活用に向けた所有者との調整・交渉

物件活用事業者の募集とマッチング

物件の改修

事業の運営

5

(2) 昇龍道プロジェクト

「昇龍道プロジェクト」は、中部運輸局、北陸信越運輸局及び中部広域観光推進協議会において、岐阜県を含む中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等と協働して中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進するための取り組みで、国が認定する国内7つの広域観光周遊ルートの一つです。その中で、日本の「まん中」にあるのが昇龍道です。

中部・北陸地方(富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県)を「龍」に見立て、日本を代表する富士山をはじめとする「山々」、清らかな水に恵まれ育まれてきた「食・銘酒」、「サムライ」により形成されてきた歴史と伝統文化、匠により創り出され伝承されてきた「ものづくり」が、この地域が提案する広域観光周遊ルートのテーマです。

御嵩町は、昇龍道4つのモデルコースの中で、昇龍道の象徴的なルートで名古屋～飛騨～北陸へと向かう伝承空間を旅する「Dragon Course」と、古き良き日本の心に触れる「Nostalgic Course」の2つのルートの周辺に位置しています。

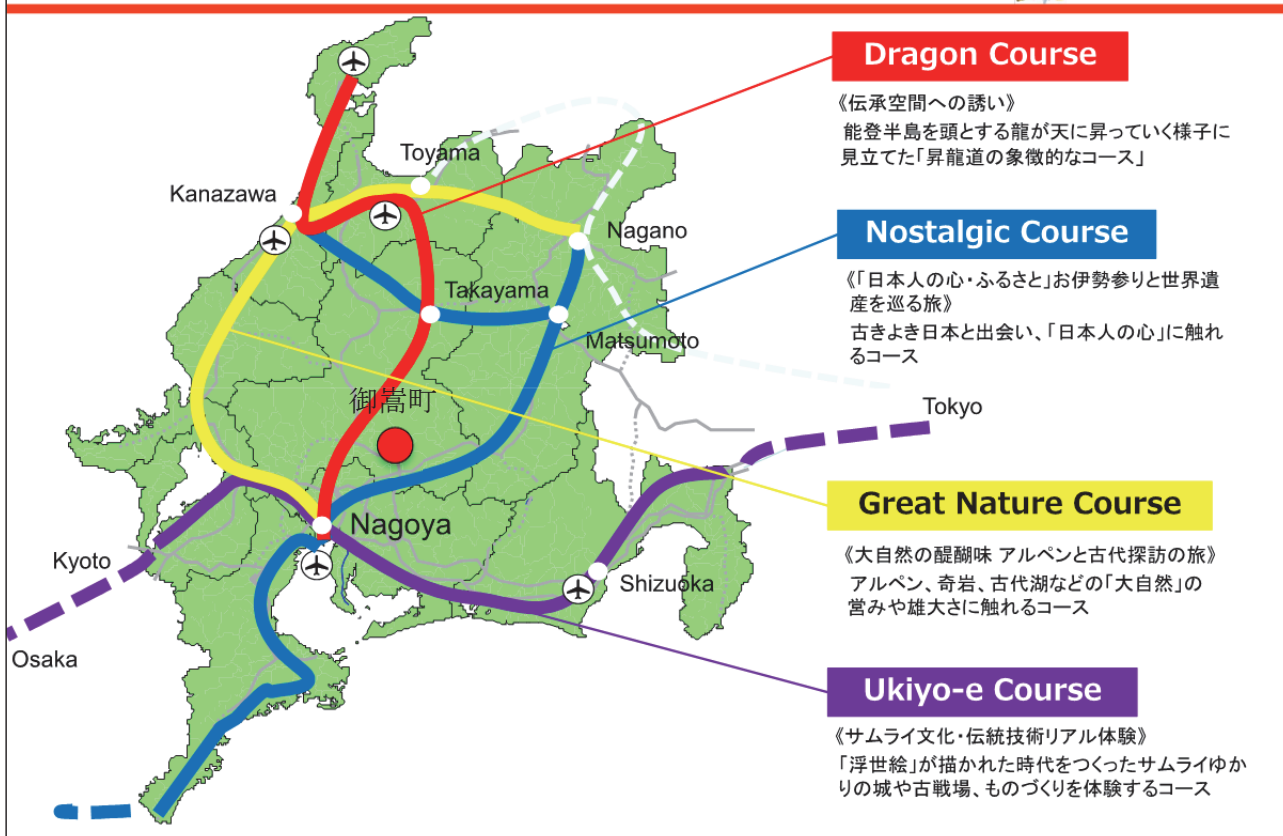
広域観光周遊ルート



「昇龍道」の4つのモデルコース



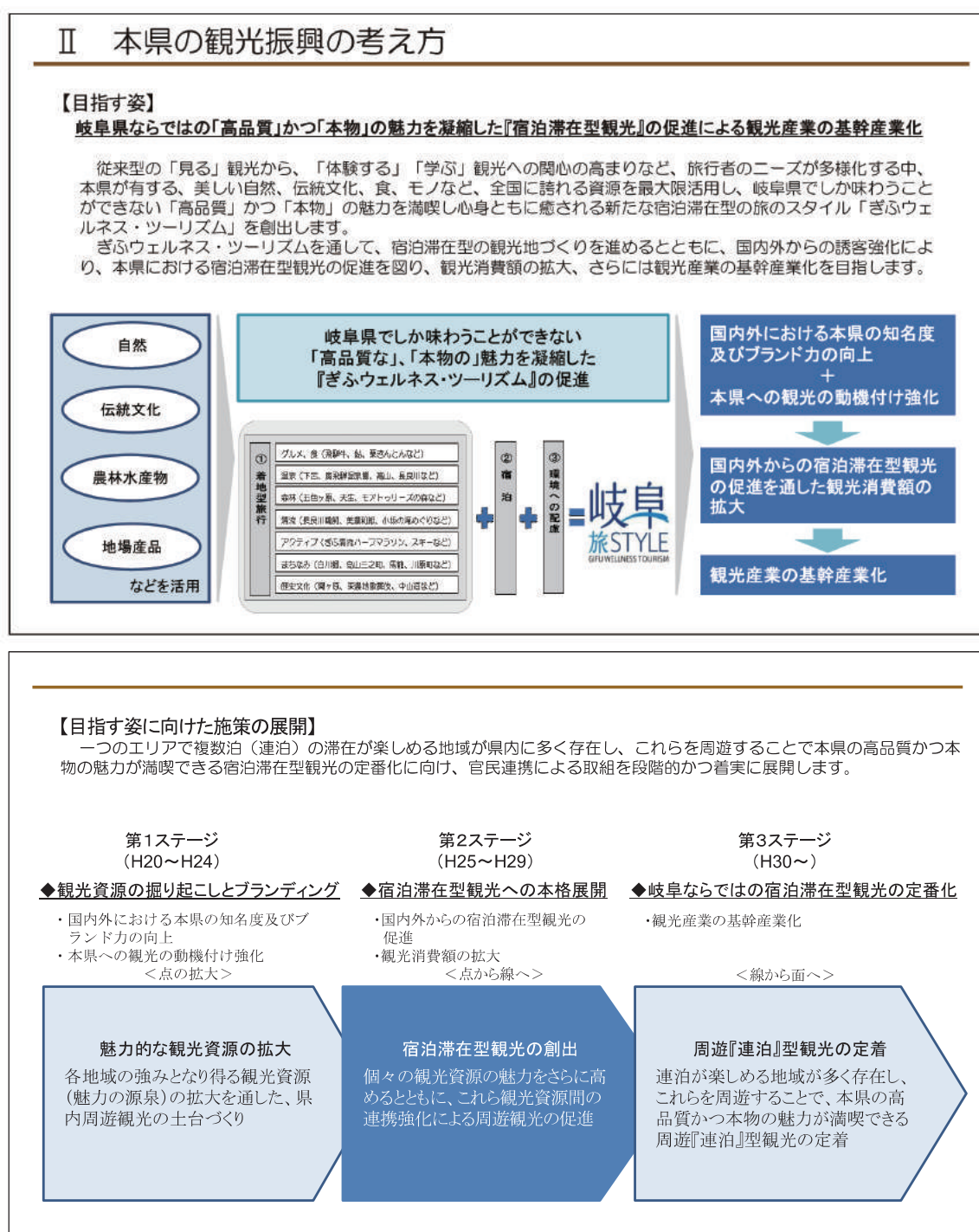
昇龍道プロジェクト



出典：昇龍道プロジェクト HP (<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kikaku/syoryudo/index.html>)

(3) 岐阜県観光振興プラン

平成25年に策定した岐阜県の観光振興プランにおいては、自然や伝統文化などを活用し高品質かつ本物の魅力を凝縮した「宿泊型滞在観光」を核として「観光産業の基幹産業化」を目標としています。施策の展開においては、「宿泊滞在型観光」の本格展開からその定番化を進める、第2・3ステージが本計画と重複します。



2-4. 策定基本方針

御嵩町観光基本計画の策定にあたり、観光産業が御嵩町の新しい成長産業であると位置づけ、御嵩町の歴史文化を守り暮らしを豊かにする営みとしても捉え、下記のような基本方針を定めます。

【策定基本方針】

歴史ある中山道が東西に横断する御嵩町。
御嶽宿などの歴史的資源や里山に残る昔ながらの集落など、
日本の暮らしを残す地域資源がたくさん残っている。

この観光基本計画では、
観光を御嵩町の「次世代に向けた成長産業」と
「歴史文化を守り暮らしを豊かにする営み」として捉え、
御嵩町のみらいをつくる「新しい観光のあり方※」について検討する。

注：「新しい観光のあり方」とは、これまでの観光の概念から発展して、地域の歴史文化・豊かな暮らし・交流や賑わい・次世代の産業をかたちづくる「みたけのみらいを作る新しい原動力」として観光を捉える考え方。



中山道

御蔵宿

日本歴史街道

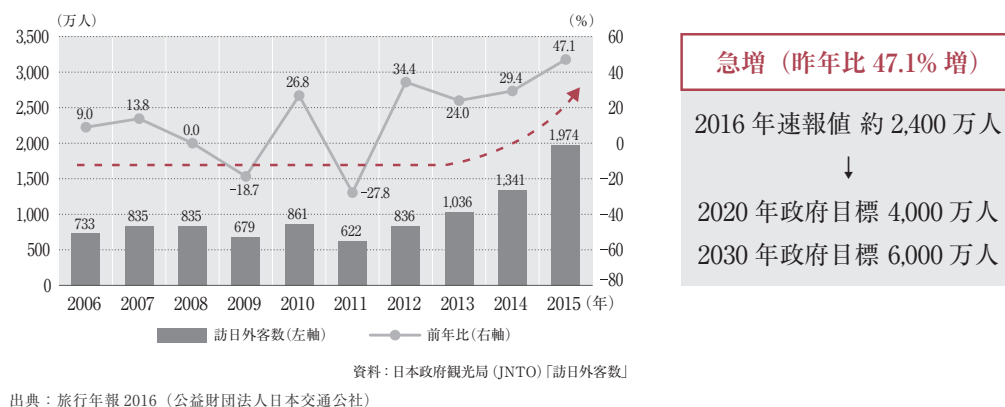
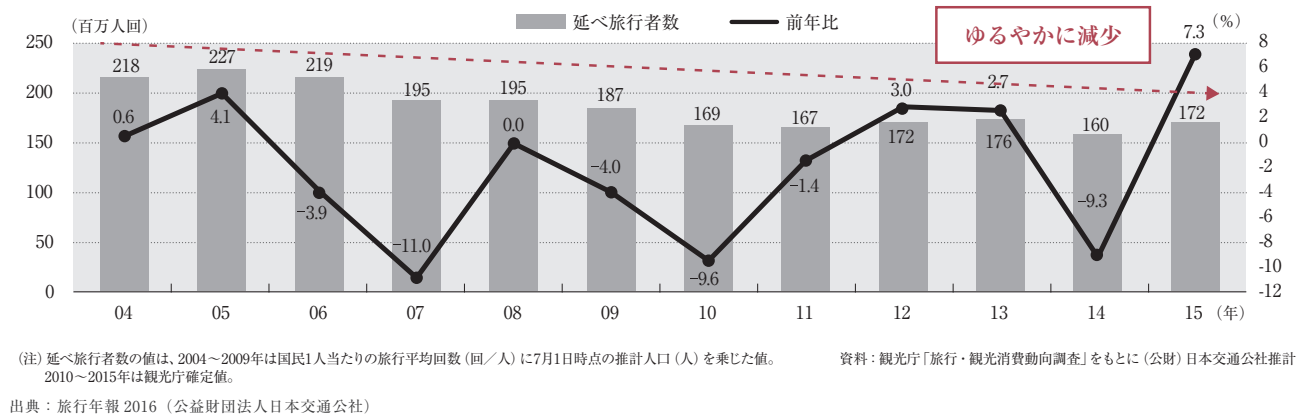
西伏見宿

30

立春堂

3-1. 観光客数

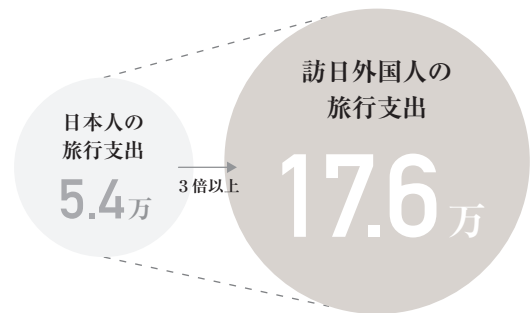
2016年の旅行者数は日本人観光客が17,200万人であるのに対し、外国人観光客は1,974万人ですが、その動向を比較すると、日本人観光客の旅行者数がゆるやかに減少する傾向であるのに対して、訪日外国人観光客は急増しています。2016年の速報値では訪日外国人観光客数は約2,400万人とさらに増加しています。政府は観光を成長産業の柱で地方創生の切り札と考え2020年に4,000万人、2030年に6,000万人を目指しており、今後も増加傾向が続くと予想されています。



3-2. 訪日外国人の旅行傾向

(1) 旅行消費

1旅行1人あたりの旅行支出について、日本人が5.4万円に対し、訪日外国人は3倍以上の17.6万円を支出しています。また、訪日外国人の旅行支出傾向を見ると、アジア圏より欧米圏の旅行客の支出が比較的高く、欧米圏の旅行客は宿泊料金、飲食費、交通費、娯楽費に費用を使い、買い物にける費用が少ない傾向にあります。一方、アジア圏で支出額が高い中国やシンガポールの旅行客は、買い物代に多くの消費をしている傾向にあります。



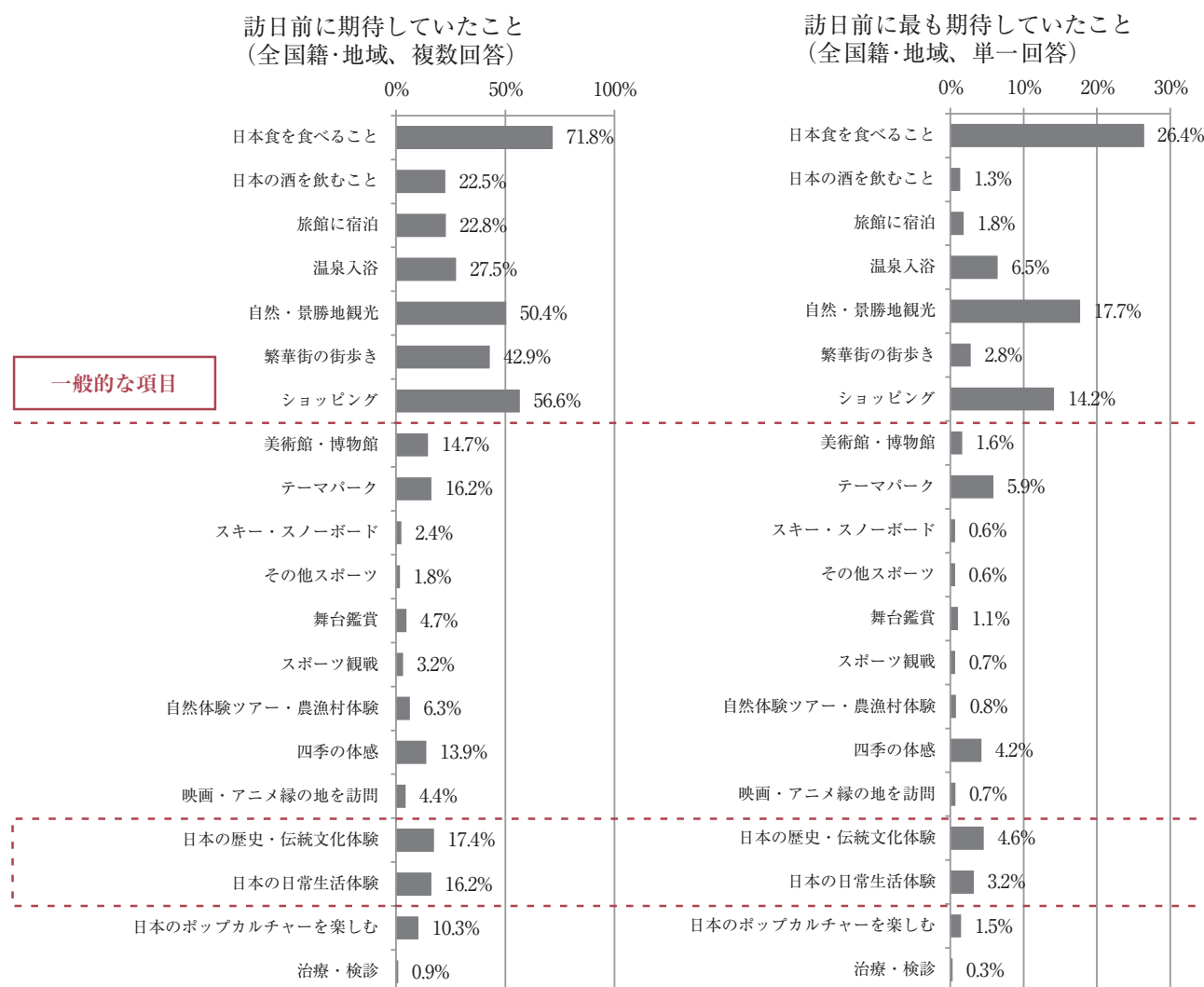
(単位：円／人)								(単位：億円)
	旅行支出 総額	宿泊料金	飲食費	交通費	娯楽 サービス費	買物代	その他	訪日外国人 旅行消費額
全国籍・地域	176,167	45,465	32,528	18,634	5,359	73,662	518	34,771
東アジア	韓国	75,169	22,495	18,203	8,421	3,306	22,195	3,008
	台湾	141,620	36,048	25,794	15,286	4,965	59,500	5,207
	香港	172,356	42,165	35,439	17,203	4,752	72,145	2,627
	中国	283,842	50,116	42,307	21,908	6,308	161,973	14,174
東南アジア	タイ	150,679	41,653	28,751	20,363	5,817	53,694	1,201
	シンガポール	187,383	63,677	38,761	20,524	3,968	60,415	579
	マレーシア	150,423	44,737	32,477	17,506	6,242	49,454	459
	インドネシア	147,149	50,840	27,734	24,327	3,889	40,338	302
	フィリピン	126,567	36,403	27,379	14,510	5,411	42,809	340
欧米・その他	ベトナム	194,840	50,360	41,368	21,889	5,642	75,164	361
	インド	148,340	58,847	36,729	19,080	2,266	31,255	153
	英国	210,681	97,220	46,367	29,667	6,188	31,239	545
	ドイツ	171,031	69,160	35,072	34,755	7,783	24,262	278
	フランス	209,333	84,677	41,704	36,968	9,169	36,760	448
	ロシア	182,484	59,267	34,689	24,538	8,193	54,270	99
	米国	175,554	74,017	40,889	25,465	5,883	29,247	1,814
	カナダ	170,696	60,886	36,387	31,107	8,652	33,635	395
	オーストラリア	231,349	91,177	52,927	36,338	14,079	36,605	870

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

出典：旅行年報 2016（公益財団法人日本交通公社）

(2) 旅行で期待していること

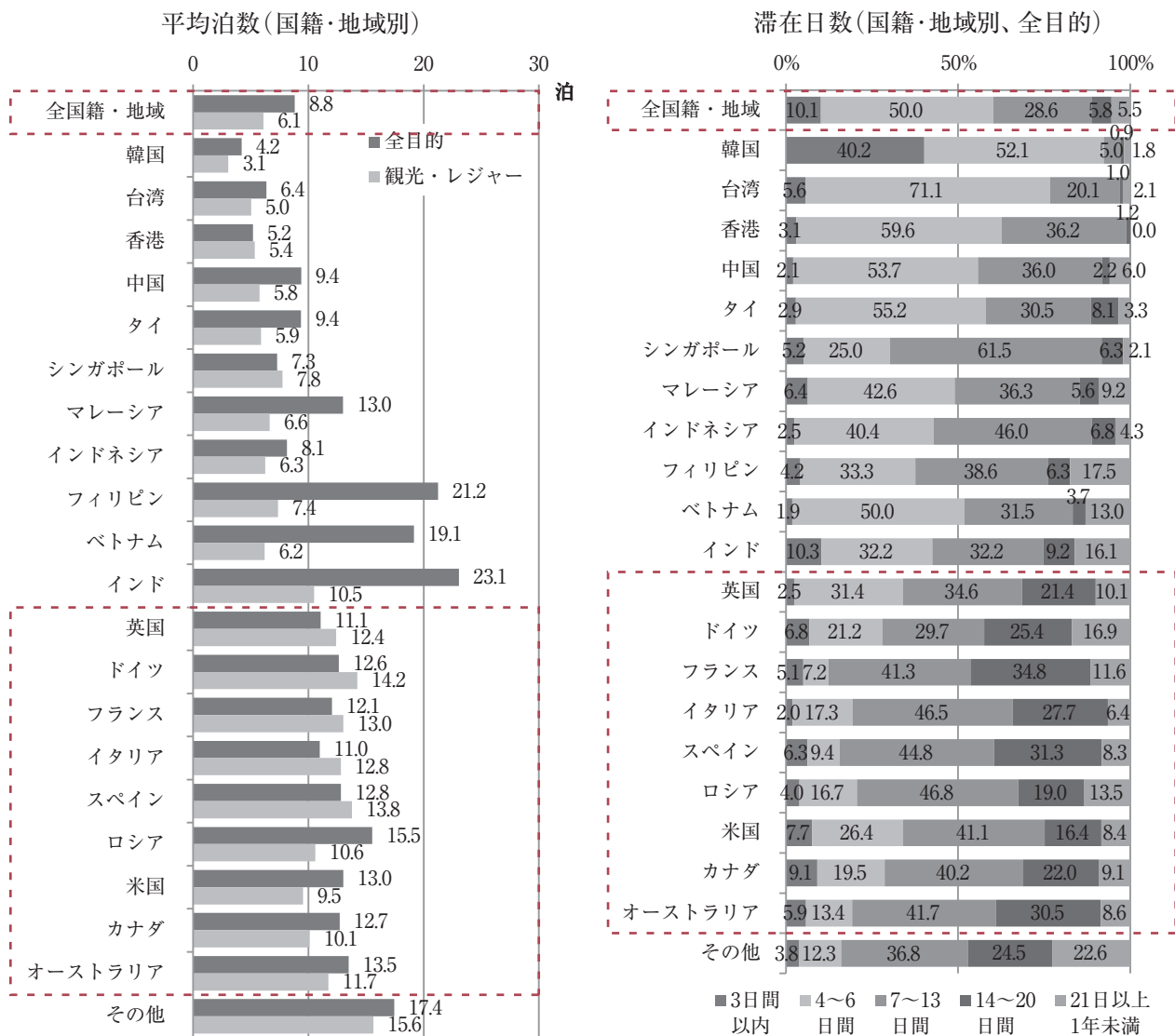
訪日外国人が訪日前に期待していたことは、食事や温泉、自然観光や買い物などの一般的な項目が多いが、それを除くと日本の「歴史・伝統文化体験」や「日常生活体験」などの体験型観光がテーマパークなどと並ぶ割合で高い数値となっています。



出典：訪日外国人の消費動向 訪日外国人消費動向調査結果及び分析 平成28年4-6月期 報告書

(3) 平均泊数・滞在日数

外国人観光客の平均泊数は、全目的で8.8日、観光・レジャー目的で6.1日となっており、滞在日数は4～6日の割合が半数となっています。観光・レジャー目的でみると、欧米圏の旅行客は平均泊数が10日を超えるなど、平均泊数・平均日数が高い傾向にあります。



出典：訪日外国人の消費動向 訪日外国人消費動向調査結果及び分析 平成28年4-6月期 報告書

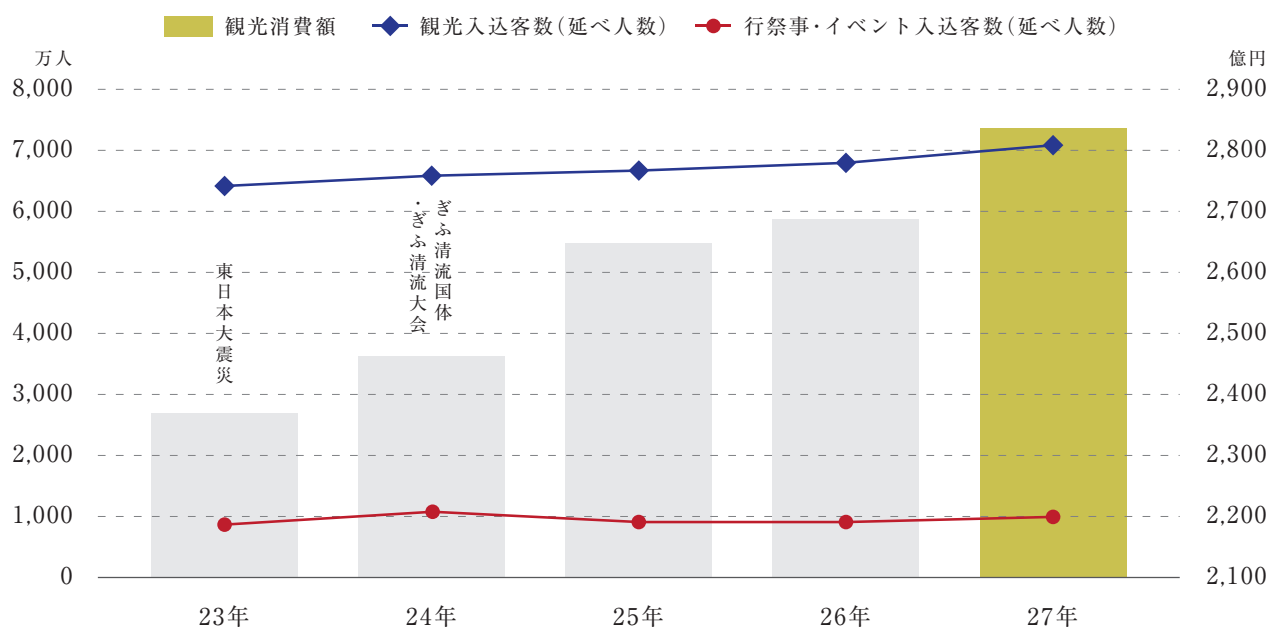
3-3. 岐阜県の観光統計

岐阜県観光入込客統計調査(平成27年度)に基づいて、主に岐阜県における国内観光客の動向について調査しました。

(1) 観光入込客数・観光消費額

平成27年度の岐阜県の観光入込客数は約7,139万人(延べ)で、前年比5.1%増加しています。増加の原因は平成27年度が恵まれた天候であったことや、北陸新幹線の延伸による飛騨地域への北陸からの入込数の増加、外国人観光客の増加などです。観光消費額も約2,843億円(前年比5.5%増)と入込客数と連動して増加しています。

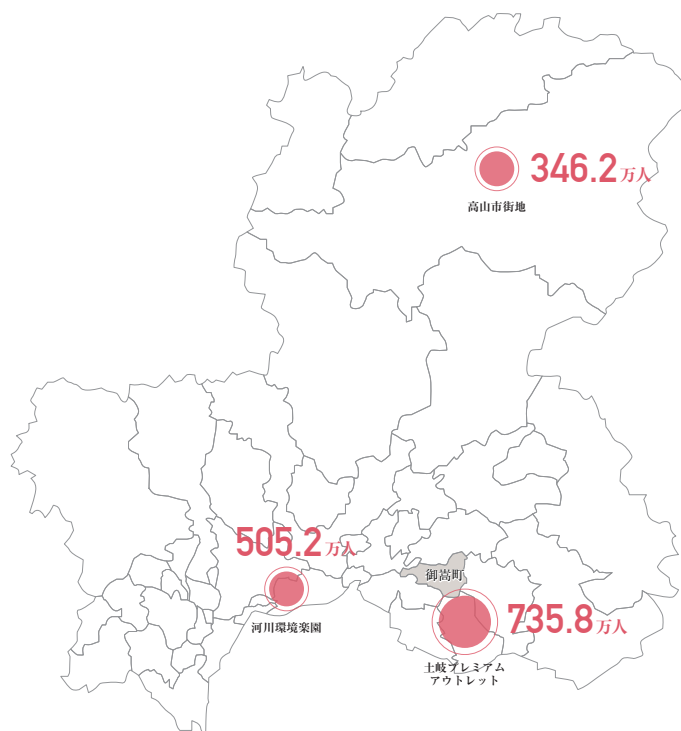
観光入込客数(延べ)・観光消費額



区 分		平成27年(対前年比)	平成26年
観 光 入 込 客 数(延べ人数)		7,139万5千人(+5.1%)	6,791万人
行祭事・イベント入込客数(延べ人数)		967万3千人(+6.3%)	909万5千人
観 光 消 費 額	全 体	2,843億74百万円(+5.5%)	2,694億41百万円
	日 帰 り 客	1,228億16百万円(+6.3%)	1,155億77百万円
	宿 泊 客	1,615億58百万円(+5.0%)	1,538億64百万円

(2) 主要観光地点

岐阜県内の主要観光地点で入込客数が最も多いのは、御嵩町から車で約25分程度と近接している土岐プレミアム・アウトレットであり、735万人が訪れています。全体の傾向としては、1位から3位までの順位に変動はなかったが、土岐プレミアム・アウトレットは増床効果で大幅に入込客数を伸ばしました。また、北陸新幹線の延伸を受けて飛騨地域の入込客数が大きな伸びをみせています。



順位	観光地点名	入込客数 (万人)	参考：26年	
			順位	入込客数(万人)
1	土岐プレミアム・アウトレット	735.8	1	591.6
2	河川環境楽園(アクア・トトぎふ含む)(各務原市)	505.2	2	500.7
3	高山市街地エリア	346.2	3	312.3
4	千代保稲荷神社(海津市)	162.9	5	175.5
5	白川郷合掌造り集落(白川村)	161.2	9	129.5
6	湯の華アイランド(可児市)	154.6	4	206.2
7	千本松原・国営木曽三川公園(海津市)	153.4	6	154.7
8	伊奈波神社(岐阜市)	149.7	7	149.7
9	世界イベント村ぎふ(岐阜メモリアルセンター)(岐阜市)	144.0	8	131.6
10	下呂温泉(旅館の宿泊利用及び日帰り利用)	113.1	10	111.5

(3) 日帰り・宿泊別観光入込客数

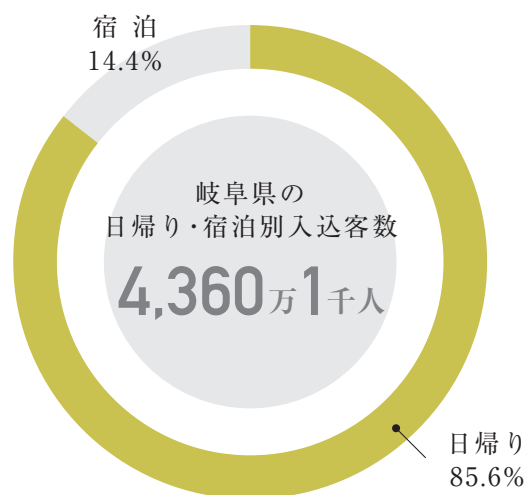
岐阜県内の日帰り・宿泊別入込客数は、宿泊客約629万人(14.4%)に対し、日帰り客が約3,731万人(85.6%)と圧倒的に日帰り客の方が多く状況にあります。宿泊客の中で外国人は約77万人となっており、前年比から48%の増加と高い伸び率になっています。

<観光入込客数(実人数)>

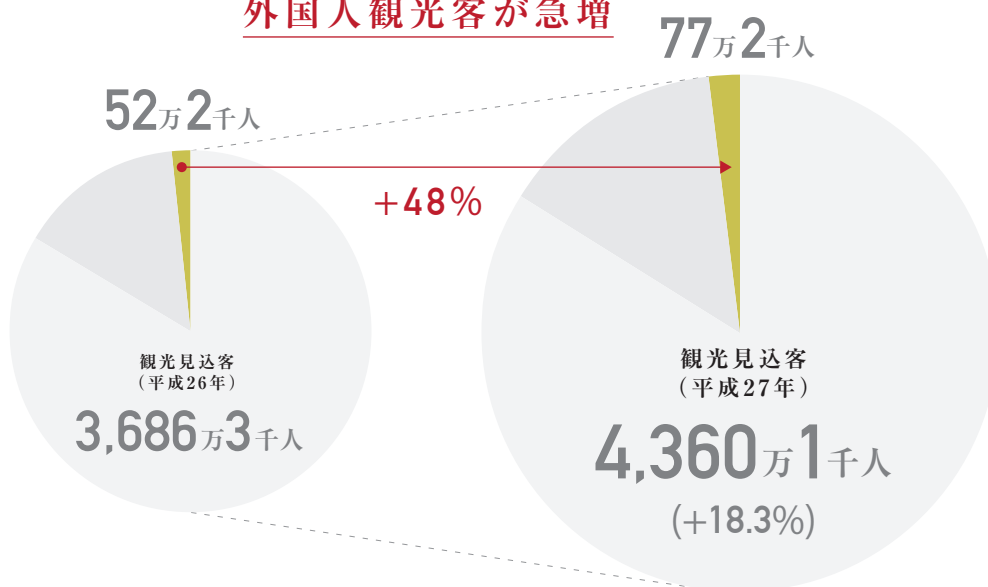
区 分	平成27年(対前年比)	平成26年
全 体	4,360万 1 千人(+18.3%)	3,686万 3 千人
日 帰 り 客	3,731万 1 千人(+19.3%)	3,128万 7 千人
宿 泊 客	628万 9 千人(+12.8%)	557万 5 千人
【うち外国人】	【77万 2 千人(+48.0%)】	【52万 2 千人】

※宿泊客の「うち外国人」については、観光庁の宿泊旅行統計調査における本県の外国人延べ宿泊者数をもとに算出している。(平成27年外国人延べ宿泊者数93.1万人)

出典：平成27年岐阜県観光入込客統計調査

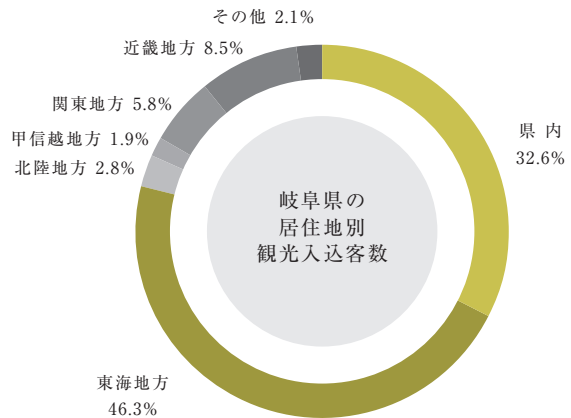


外国人観光客が急増



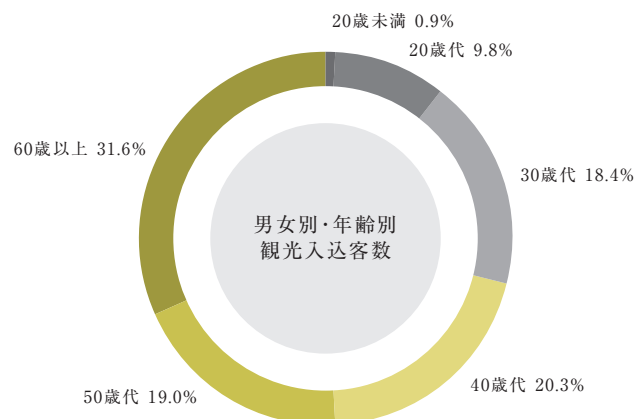
(4) 居住地別観光入込客数

岐阜県の居住地別入込客数は圧倒的に県内と東海地方が多く、合計で76.9%と大半を占めています。その他では近畿地方、関東地方が多い状況です。



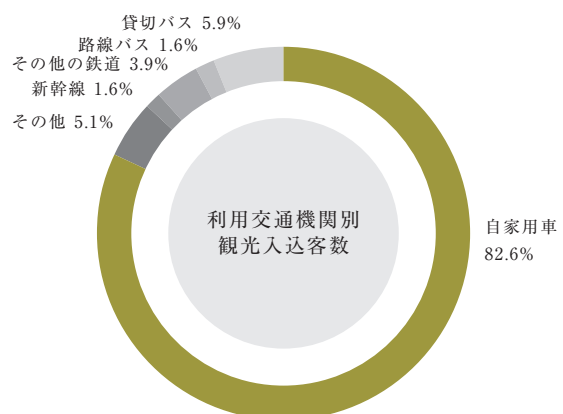
(5) 年齢別観光入込客数

岐阜県の年齢別入込客数は50-60代の層が半数で、その次に30-40代が多い状況です。



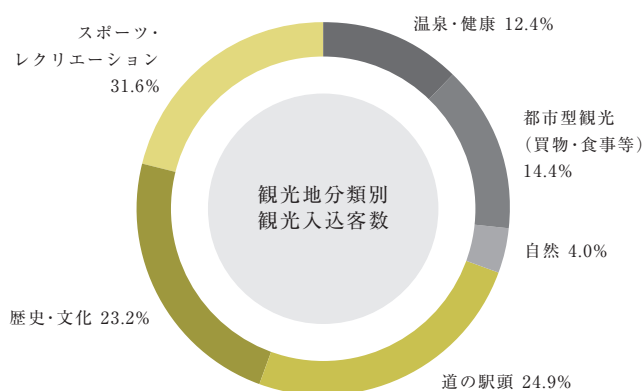
(6) 交通機関別観光入込客数

岐阜県の交通機関別の観光入込客数は自家用車が圧倒的に多く、82.6%を占め、鉄道やバスなどの公共交通機関の割合は低い状況です。



(7) 観光地分類別観光入込客数

岐阜県の観光地分類別の入込客数は、「道の駅等」に次いで「歴史・文化」が23.2%と多い状況です。



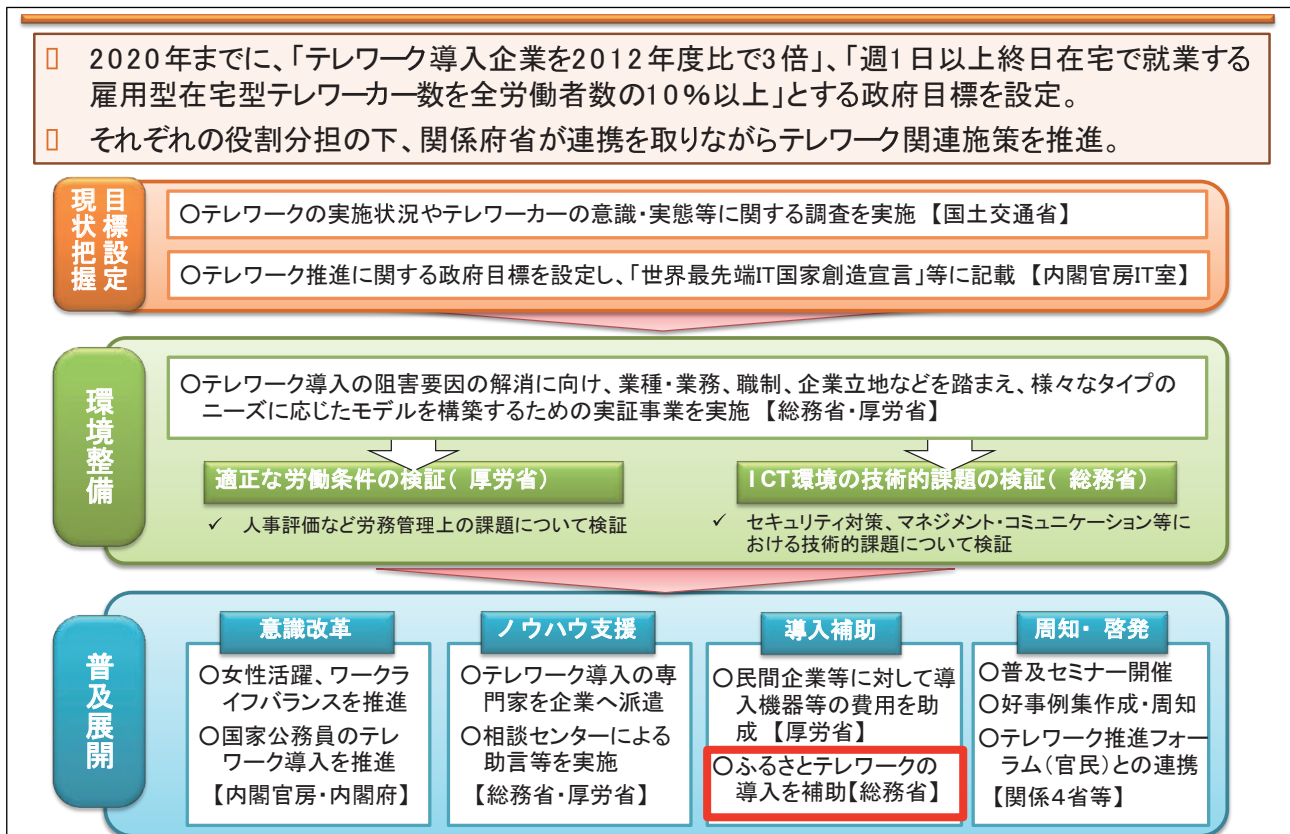
■ 観光地点

自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然(エコツーリズム、グリーンツーリズム等)
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 －買物・食事－	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光－買物・食事－(農水産品の直売所、物産館等)
道の駅等	他に分類されない観光地点(道の駅、パーキングエリア等)

3-4. 新しい働き方の傾向

(1) 政府のテレワーク推進の動向

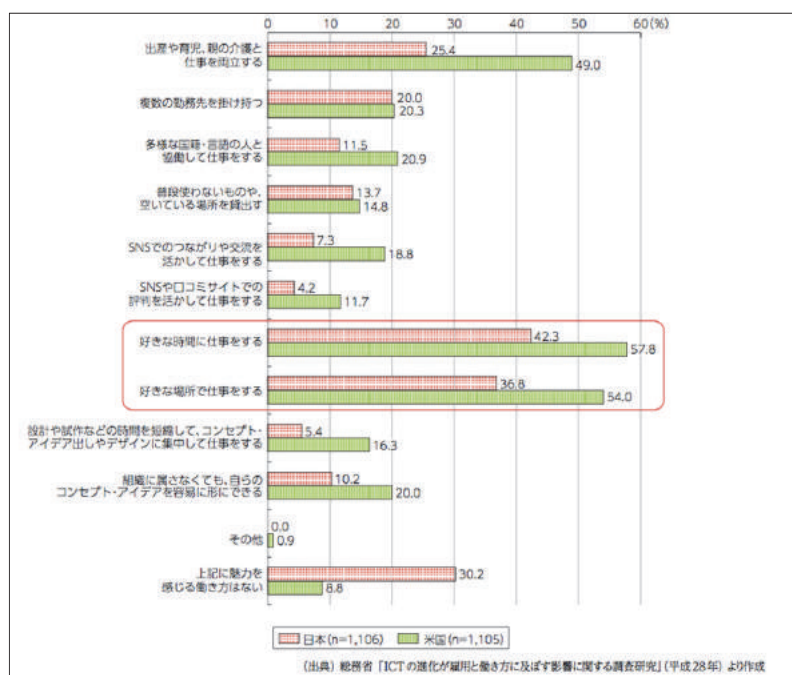
インターネットなどのICT(情報通信技術)の発達により、場所や時間にとらわれない新しい働き方が広がりを見せています。政府においてもICTを活用した時間と場所を有効に活用できる柔軟な働き方として「テレワーク」を推進しており、2020年までに導入企業数3倍や雇用型テレワーカー数10%以上などの目標を掲げて推進しています。大企業などが柔軟性・生産性の高い働き方の実現をテレワーク推進のひとつの目標としている一方で、人や仕事の地方への流れを推進する「ふるさとテレワーク」によるサテライトオフィスの整備など、地方創生実現の手法としても注目されています。



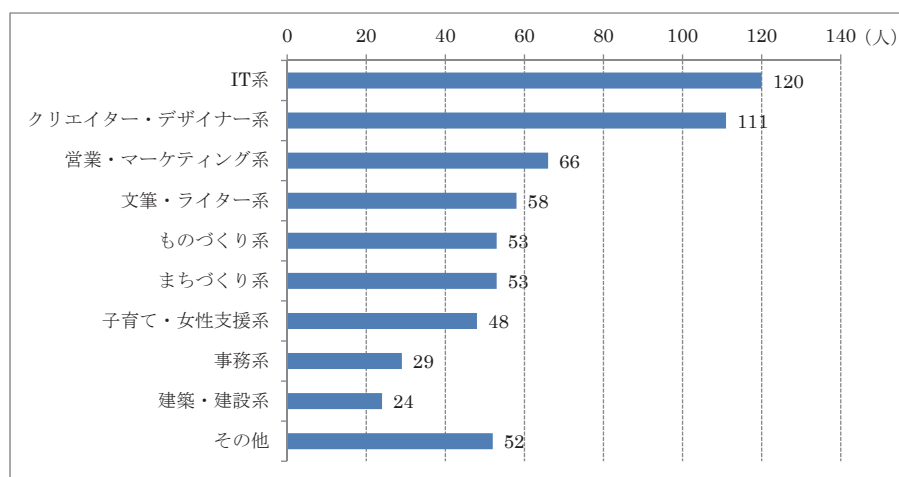
出典：総務省 テレワーク関係府省連絡会議 第一回資料
テレワーク推進に向けた政府の取り組みについて（平成28年3月）

(2)新しい働き方の動向

ICTなどの発達による柔軟な働き方が選択できる現在において、「好きな時間に働く」に次いで「好きな場所で働く」という要素が非常に重要になっており、魅力あるサテライトオフィスやコワーキングスペースの重要性が高まっています。ある調査によると、国内のコワーキングスペースの利用者の業種は、IT系やデザイン系などのクリエイティブワーカーの割合が圧倒的に多い状況です。御嵩町の「新しい観光」を考える中で、従来型の宿泊や観光が主となる「滞在型観光」だけでなく、若年層を中心とする新しい暮らし方・働き方(ライフスタイル)を持ったクリエイティブ層に対して、歴史や文化の魅力を生かした「魅力ある働く場」として長期的に滞在してもらうスタイルも、新たな観光の概念のひとつとして捉える必要があります。



出典：平成28年度情報通信白書（総務省）



出典：コワーキングスペースの実態調査2014年度調査の概要報告
北海道大学 経営ネットワーク研究センター年報（阿部智和、宇田忠司、平本健太）
※国内191箇所のコワーキングスペースからのWebアンケート調査の収集データ

調査内容：

- ・全国191箇所の主要コワーキングスペースから主な利用者層をWebアンケート調査
- ・各コワーキングスペースから収集した主な利用者層の回答数合計（複数回答）



4

4. 現状調査

4-1. 位置

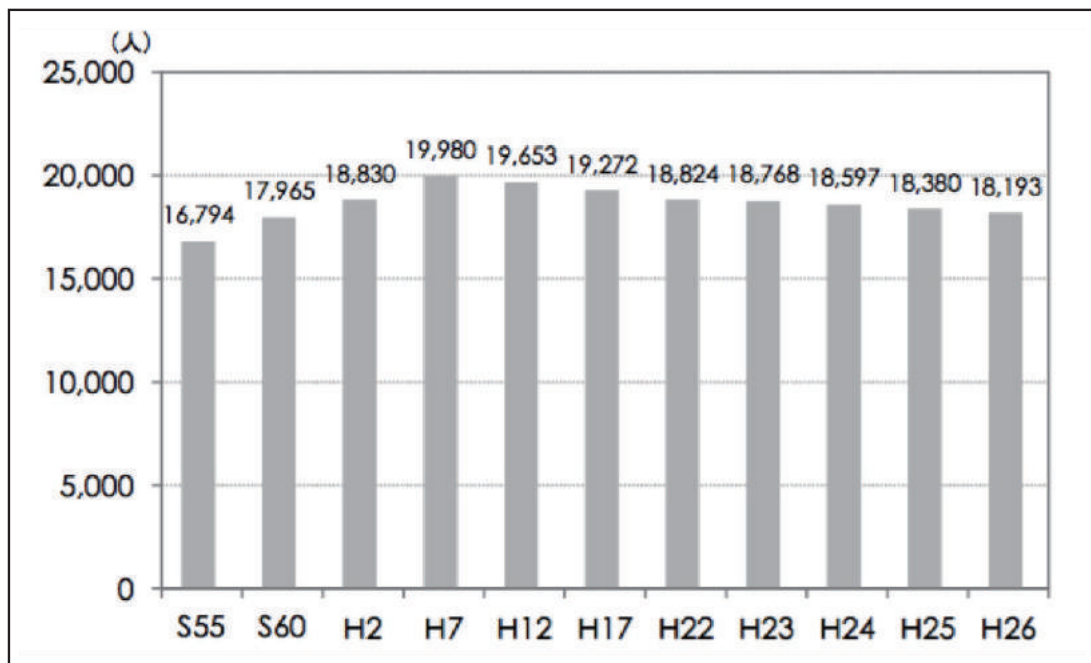
御嵩町は、東海地方の拠点都市である名古屋市から電車・車で最短1時間程度と良好なアクセスを持つ位置にあります。



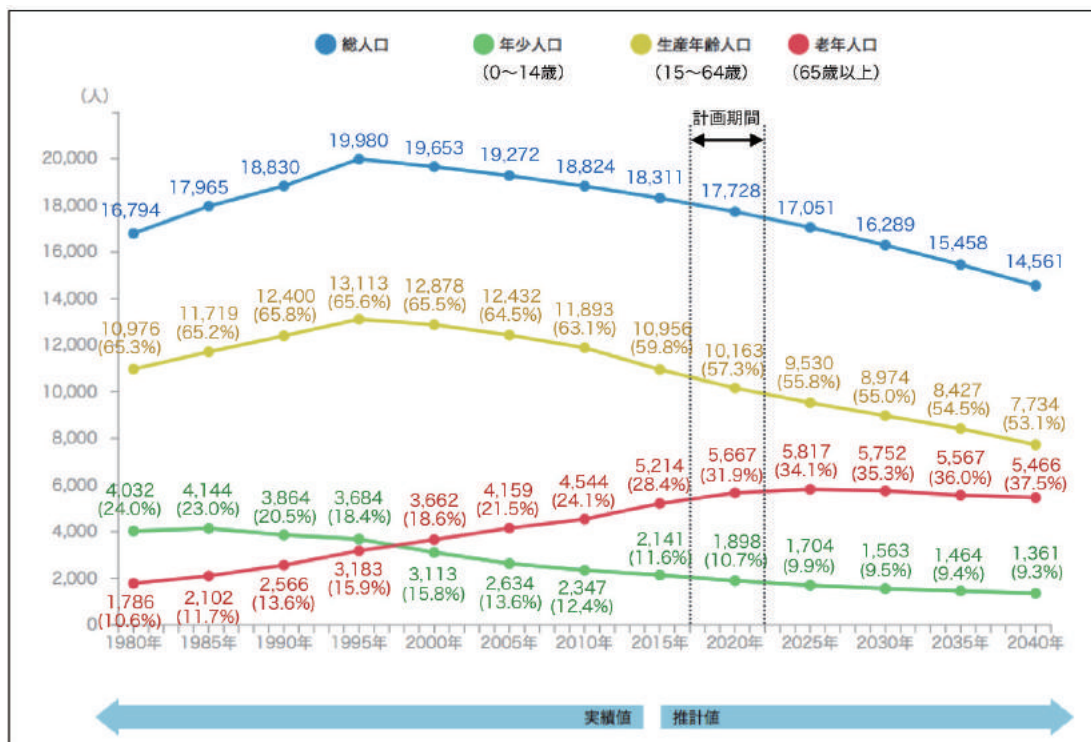
地図：google

4-2. 人口推移

人口は平成7年をピークに減少傾向にあります。年齢別の人口を見ると、年少・生産年齢人口が減少、老年人口が増加傾向にあります。将来の人口推移を見ると、人口減少と高齢化、年少・生産年齢人口の減少がさらに進んでいく状況となっています。



出典：御嵩町第五次総合計画（国勢調査・H23年以降は岐阜県人口動態統計調査）

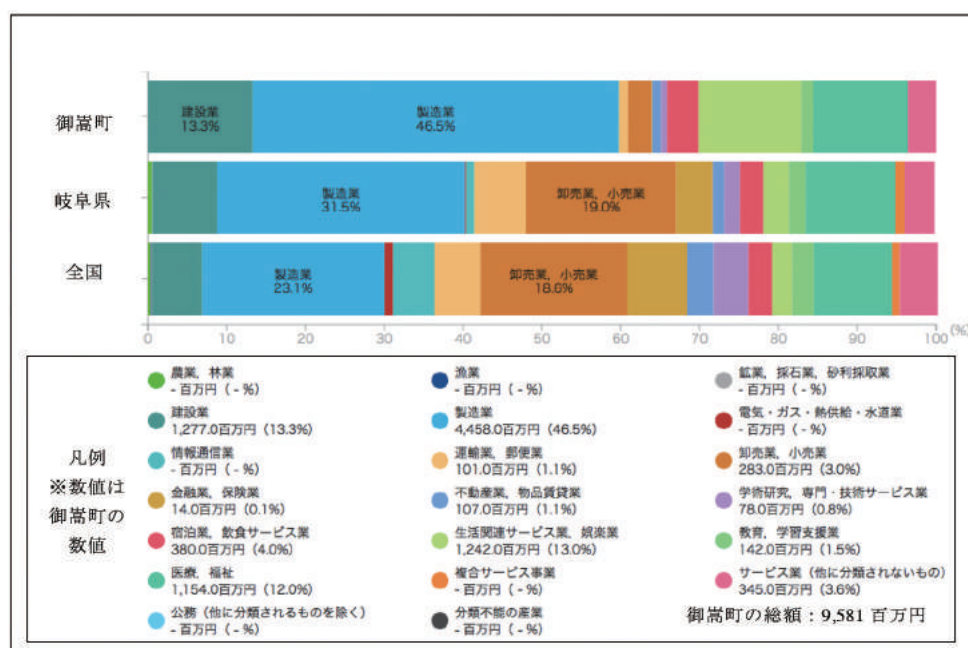


出典：地域経済分析システム RESAS

4-3. 産業構造

産業別の付加価値額(※)では、46.5%は製造業が占めており、観光業を含む宿泊、飲食サービス業の割合は4.0%で約3.8億円となっています。現時点では、「地域外から稼ぐ」観光業の割合は少なく、御嵩町の主要産業ではありません。

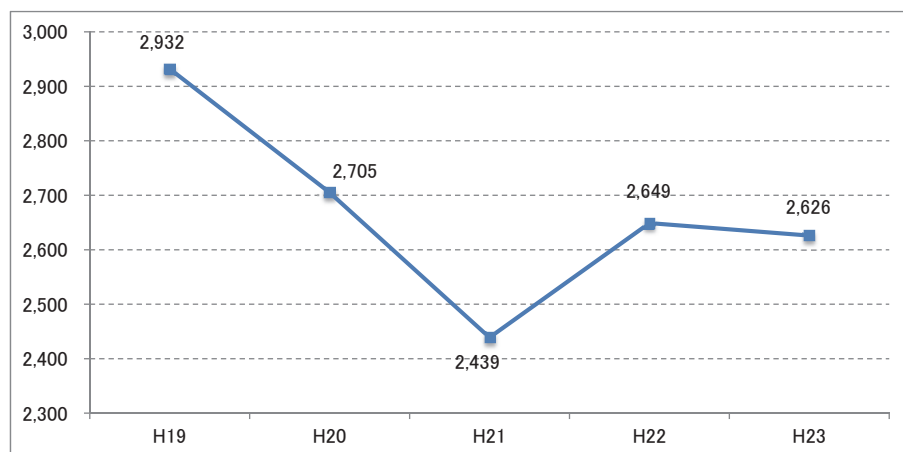
※付加価値額とは、地域の産業がどれだけ稼いでいるかを表す指標（付加価値額＝売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課）



出典：地域経済分析システム RESAS

4-4. 町民所得

町民所得の推移を見ると、平成19年から横ばい・減少の状況となっています。御嵩町の主要産業である製造業と並ぶ、次世代の産業の創出・育成が期待されます。

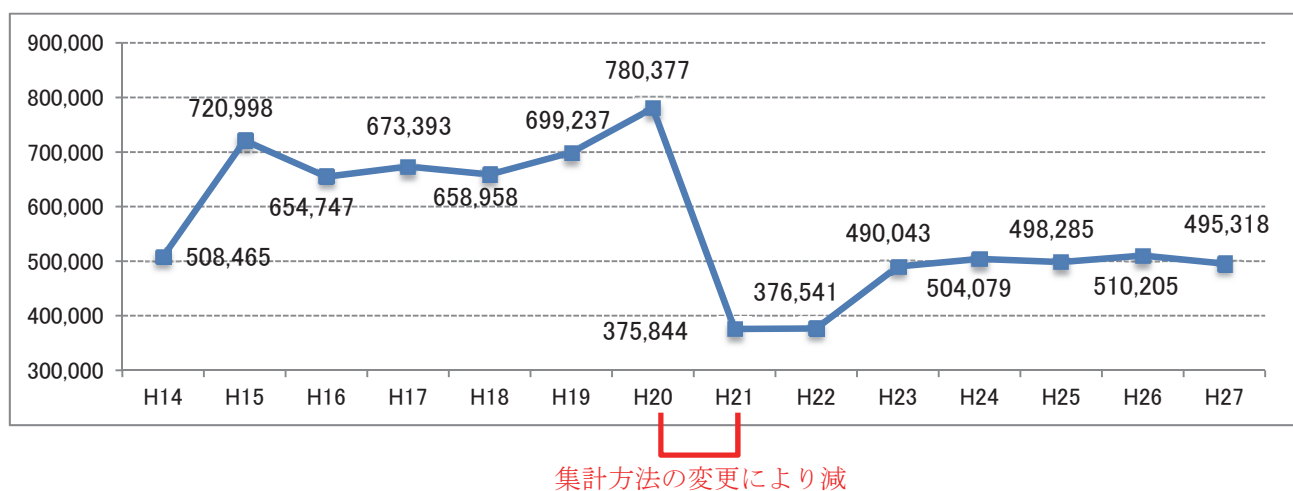


出典：御嵩町統計書

単位：百万円

4-5. 観光客数

観光客数は、平成21年度に集計方法の変更から大幅に減少した後、50万人前後で横ばい状態となっています。施設別の観光客数を見てみると、施設内で完結することが多いゴルフ場の利用者が半数以上を占め、その他ではイベントや日帰りなど、観光消費額が少ない顧客が多い状況です。観光の産業化に向けては、滞在型の消費額の多い顧客の誘致など、入込客数にとらわれない売上・利益ベースの目標設定が必要です。



出典：御嵩町統計書

単位：人

図表4-7：施設別の観光客数

No.	観光地点	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1	鬼岩公園	17,497	14,700	19,030	29,250	18,250
2	みたけの森	33,150	37,220	38,440	36,620	34,670
3	ゴルフ場(全施設合計)	315,597	325,467	324,039	327,221	331,675
4	海洋センター	38,149	40,429	39,110	37,423	34,846
5	中山道みたけ館	65,650	66,263	60,666	62,691	63,377
6	御嵩町薬師祭礼	5,000	5,000	5,000	4,000	3,500
7	よってりゃあみたけ	15,000	15,000	12,000	13,000	9,000
	合計	490,043	504,079	498,285	510,205	495,318

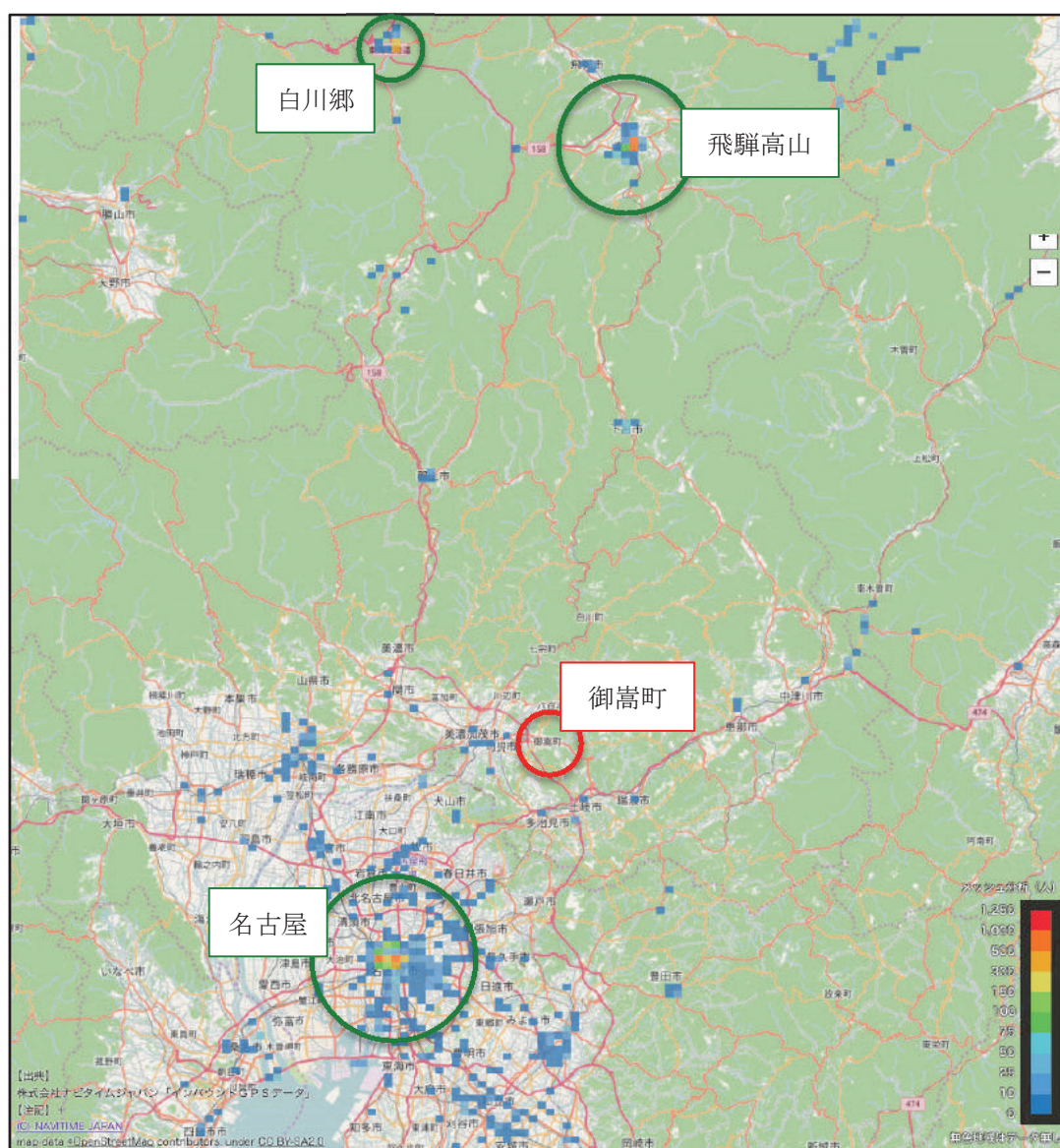
出典：御嵩町統計書

単位：人

4-6. 外国人観光客

(1) 個人客の状況

外国人の滞在状況を分析した地域経済分析システム（RESAS）の「外国人メッシュ分析」によると、名古屋や飛騨高山などに比べ、御嵩町を中心とする周辺エリアでの外国人の訪問数は少ない状況であるといえます。また、わいわい館への外国人来訪客数は295人（平成28年度）ですが、その多くが外国人向け高級ツアーの参加者とみられています。外国人観光客数、特に個人客は多くないというのが現状です。



出典：地域経済分析システム RESAS

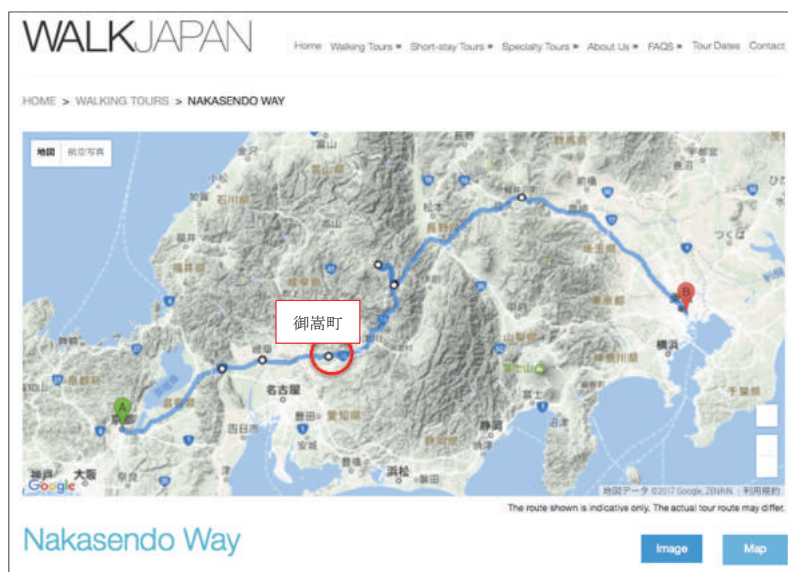
わいわい館への外国人観光客数

平成27年度	平成28年度
250人	295人

わいわい館調べ、26年以前はデータなし

(2) 外国人向け高級ツアーの状況

京都～東京間の中山道を11日間で歩き中心で巡る外国人向け高級ツアー「WALK JAPAN」の行程に御嵩町の中山道が入り、欧米を中心とする富裕層の外国人観光客が訪れています。ツアー数、客数はまだ多くないですが、御嵩町の外国人観光客の動向に大きな影響を与えており、参加者数は増加傾向にあります。しかし、その行程は関ヶ原より昼前に電車で御嵩駅に到着し、その後中山道を歩いて細久手宿で宿泊する行程となっており、御嵩町内で観光消費する機会が極端に少ない状況にあるため、今後、御嵩町内で観光消費してもらええる仕組みづくりの検討が必要です。



出典：WALK JAPAN HP (<http://www.walkjapan.com/tour/nakasendo-way/>)

「WALK JAPAN」中山道コース 10泊11日	
1日目：京都(徒歩なし／ホテル泊／夕食付)	
2日目：京都－彦根－関ヶ原(徒歩8km／旅館泊／朝夕食付)	
3日目：関ヶ原－御嶽－細久手(徒歩12km／旅館泊／朝昼夕食付)	
	・電車で御嵩駅へ ・御嶽宿より、偉大な古道である中山道の雰囲気を感じる石畳や神社のある山道を、次の宿場の細久手宿まで歩く ・途中の茶屋で麺類や水分補給を提供 ・細久手の17世紀からの歴史ある旅館に宿泊
4日目：細久手－恵那(徒歩22km／ホテル泊／朝夕食付)	
5日目：恵那－馬籠(徒歩18km／旅館宿泊／朝夕食付)	
6日目：馬籠－妻籠(徒歩10km／旅館宿泊／朝夕食付)	
7日目：妻籠－木曽福島(徒歩24km／旅館宿泊／朝夕食付)	
8日目：木曽福島－開田高原(徒歩12km／旅館宿泊／朝昼夕食付)	
9日目：開田高原－奈良井－軽井沢(徒歩11km／旅館宿泊／朝夕食付)	
10日目：軽井沢－東京(徒歩16km／ホテル宿泊／朝夕食付)	
11日目：東京(徒歩なし／朝食付)	

出典：WALK JAPAN HP (<http://www.walkjapan.com/tour/nakasendo-way/>)

(3) 外国人向け高級ツアー参加者へのアンケート

御嵩町に現在訪れている貴重な外国人観光客である外国人向け高級ツアーの参加者にアンケートを実施し、御嵩の印象や満足度などを調査しました。

欧米やアジアなど8名の参加者から回答をもらいました。地域の生活風景や街並み、歴史ある街道や伝統ある宿泊施設や食事への興味、地元住民とのふれあいや自然の美しさなどへの満足度などが確認された一方、英語での案内やベジタリアンへの対応、伝統や魅力ある飲食店、マッサージやスパなどの疲れを癒すサービス、さらに深い歴史文化体験(祭りなど)の必要性が課題となっています。

実施概要

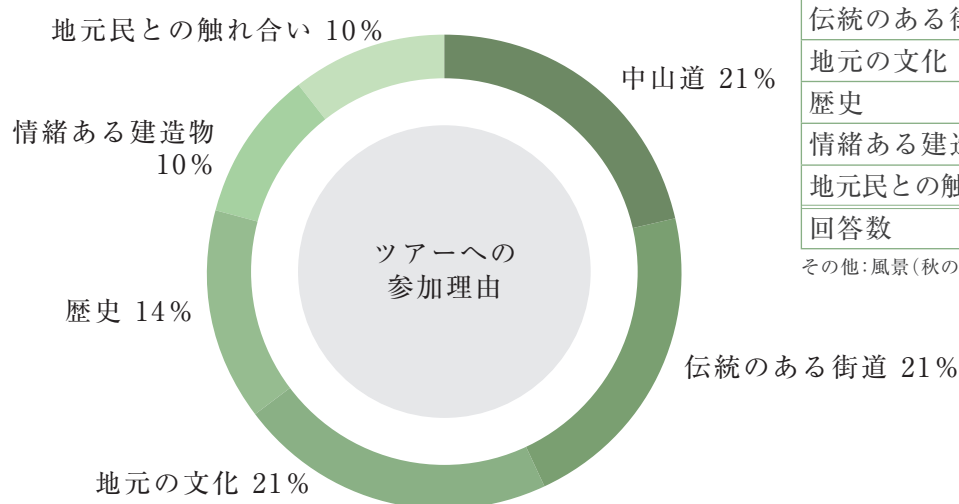
実 施 日 時	平成28年11月18日
対 象 者	外国人向け高級ツアー参加者
実 施 方 法	大黒屋(細久手宿)でアンケート用紙を渡し記入してもらう
実施数(サンプル数)	8名

対象者基本情報

性 別	男性:3人 女性:4人 未回答:1人
国 籍	オーストラリア:3人 シンガポール:2人 アメリカ・香港・インド:各1人
年 齢	50～59歳:4名 40～49歳:2名 20～29歳:2名
参 加 メ ン バ ー	恋人:4人 家族:1人 友達:1人

アンケート結果

問1: ツアーに参加した理由は? (複数回答)



中山道	6	21%
伝統のある街道	6	21%
地元の文化	6	21%
歴史	4	14%
情緒ある建造物	3	10%
地元民との触れ合い	3	10%
回答数	28	100%

その他: 風景(秋の色、秋景色) / 都会との差

問2: 御嵩町は印象的でしたか?

<その理由>

地元の人々・食事、親切な人たち、わいわい館
ラ・プロヴァンス、お寺(古いけどきれいだった)



問3: 中山道の歴史を学ぶことはできましたか?

<その理由>

ガイドが博識だったからガイドのおかげ /
まだ認識途中



問4:御嵩町(を通る中山道)を歩いた満足度とその理由を教えてください。

- <面白かった点>
- ・ありのままの自然の美しさ
 - ・古道の案内がすばらしい
 - ・ホスピタリティ
- <つまらなかった点>
- ・看板が英語ではない



問5:どうすればもっと御嵩町に外国人旅行客が訪れると思いますか？

- ・英語の標識や案内
- ・ベジタリアンへの対応
- ・もっと探検できる他の中山道の宿との連携
- ・一人では企画して来ても楽しめない、英語を話せる存在
- ・ツアー外で体感できるローカリズム

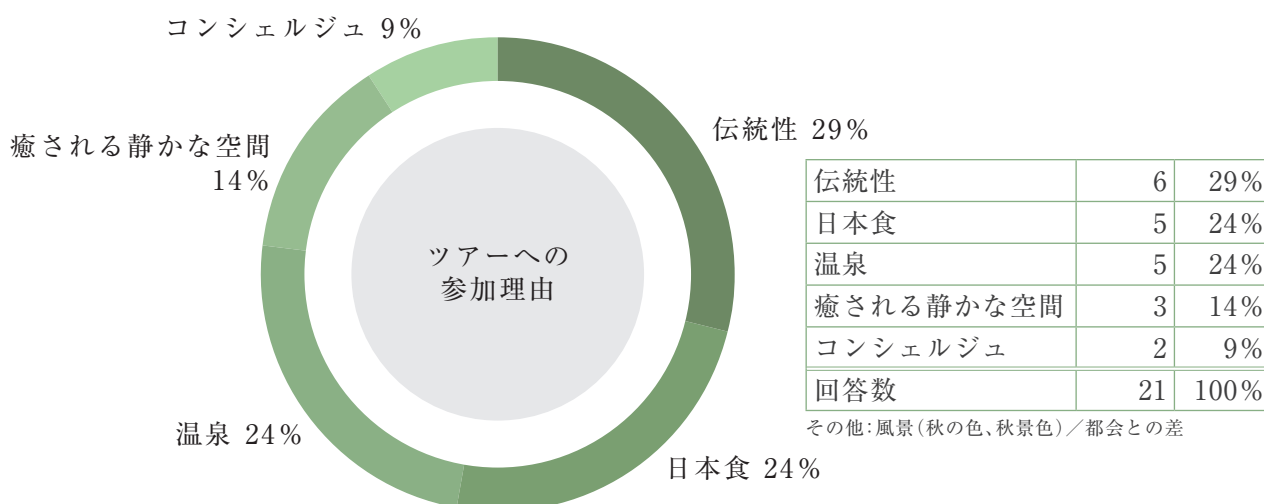
問6:何をSNSに投稿しましたか？

- ・町並み
- ・生活風景

問7:こういったコンテンツがあればもっと御嵩を歩くのが楽しくなると思いますか？

- ・日本のお茶が飲めるカフェ(英語でChayaと記載の方も)
- ・マッサージやスパなどの疲れを癒すサービス
- ・より伝統的な食事があれば、町に行く理由になる
- ・地元の祭り

問8:中山道を歩くあなたが、日本の宿に期待することは何ですか？



問9:あなたが訪れた最も印象的な場所やコンテンツはなんですか？(古道や歴史的町並みなど)

- ・チンクエ・テッレ(イタリア)
- ・京都

4-7. 地域プレイヤーヒアリング

御嵩町内でまちづくりや会社経営などに関わっている町民の皆さま27組35名の方々に地域プレイヤーヒアリングを実施しました。その結果、観光基本計画の策定に向けて、下記のような意見を聞くことができました。本計画への積極的興味や地域への強い愛情、エリアごとの特徴など期待できる意見が上がってきた一方で、共通するビジョンや若手プレイヤーの不足などの課題も見えてきました。

実地概要

実施日	2016年8月5・6・7・16日／9月6・7・9日の7日間
対象者	地域プレイヤーと思われる町民の方々を任意抽出 ※一部で、御嵩町に関わる方も含む
実施方法	対面で直接ヒアリング
実施数(サンプル数)	27組(35名)
種別	地域団体:6組(8名)／行政関係者:3組(4人) 企業・店舗経営者:16組(19人)／移住者:2組(4名)
ヒアリング内容	・御嵩町の現状 ・御嵩町の観光 ・御嵩町の暮らし ・今後退の可能性や希望 など

期待

- ・観光基本計画やまちづくりへの積極的な関心
- ・古民家など空き家や歴史的資源を活用した地域づくりへの関心
 - ・御嵩町の強い愛情
- ・暮らしやすい御嵩の環境と生活
- ・エリア毎の特性や人材の発見
 - ・40歳以上世代の活力と若手潜在的プレイヤーの存続可能性

課題

- ・観光の衰退と将来目標の不足(足並みや、目標が各自バラバラ)
- ・空き家の増加と歴史的資源を活かしきれていない状況
- ・主体的なまちづくりプレイヤーの不足
 - ・次世代を担う若手人材の不足
 - ・地域内交通手段の不足
- ・町民の交流や文化発信場所の不足(カフェ、飲食店、文化ホール等)

4-8. 地域検討ワークショップ

本計画策定の過程において、町民の皆様などに参加いただき、古民家活用（観光施設整備）と特産品開発の2回の地域検討ワークショップを実施しました。その中からも、本計画の策定の参考となる様々な意見を聞くことができました。

（１）古民家活用ワークショップ

第1回目は、古民家再生の第一人者の建築家である才本謙二氏を招き、御嶽宿のまち歩きと講演会、古民家空き家を活用した観光拠点施設のアイデア検討を行いました。

『古民家再生の第一人者と考える御嶽宿の活かし方』ワークショップ実施概要

実施日時	2016年11月19日（土） 12:30～17:00	会場	御嵩町役場 北庁舎3階大会議室、 御嶽宿
講師	才本謙二氏 （建築家・才本建築事務所）	参加人数	31名（みたけ地域活性化委員、地域の建設業、 制作業、移住希望者、行政職員の方々など）
実施内容	①御嶽宿散策 空き家となっている柏屋の利活用をテーマとして、改めて御嶽宿を面で考察するために参加者全員で町歩きを実施。 ②講演 講師の事例、知見を基に、古民家活用について、また、御嵩の可能性について講演。 ③グループワーク 6人～7人を1グループとし、柏屋の活用案について考察、グループ毎で発表を行う。		

当日の様子



『古民家再生の第一人者と考える御嶽宿の活かし方』ワークショップ柏屋の活用アイデア

各グループのアイデア

アイデア①	「ものづくりとtech教育の拠点」 上之郷地区に点在するクラフト職人たちの日替わりアンテナショップ。販売だけでなく体験も可能で、町民や学生が日常的に技術に触れることで、就職希望者を生み、継承を促す、持続性を見据えたアイデア。	アイデア④	「体験複合施設」 御嵩町の地域資源を生かし、外国人などをターゲットに、「買う、見る、食べる、体験する」要素を複合した拠点施設。
アイデア②	「コンシェルジュ機能を備えたカフェ」 Walk Japanなど外国人観光の可能性を秘めた御嵩であることに着眼。外国人を中心に観光や名産を案内するコンシェルジュ機能を持ったカフェ。	アイデア⑤	「地域密着型ラーメン屋」 御嵩駅から御嶽宿を文化・食体験しながら回遊するイメージを検討。その中で、不足している「数居の低い飲食店」の機能として、観光客と住民の両方が利用できるラーメン屋とするアイデア。
アイデア③	「宿泊機能をもった情報発信施設」 情報発信拠点としてスタジオなどを中心に、物販、宿泊、カフェ機能を備え、御嵩の新たな拠点をつくるというアイデア。	アイデア⑥	「和カフェレストラン」 宿場全体のターゲットを女性として、和の雰囲気を感じるスイーツや軽食・そばなどが楽しめるカフェのアイデア。願興寺や商家竹屋とのコラボレーションも検討。

(2) 特産品検討ワークショップ

第2回目は、数多くの食のプロデュースを手がける松田龍太郎氏を招き、地域素材を使った独自の特産品のあり方や伝え方について講演会、アイデア検討を行いました。

『特産品プロデュース会議 一食の魅力、伝わりかたのデザイナー』ワークショップ実施概要

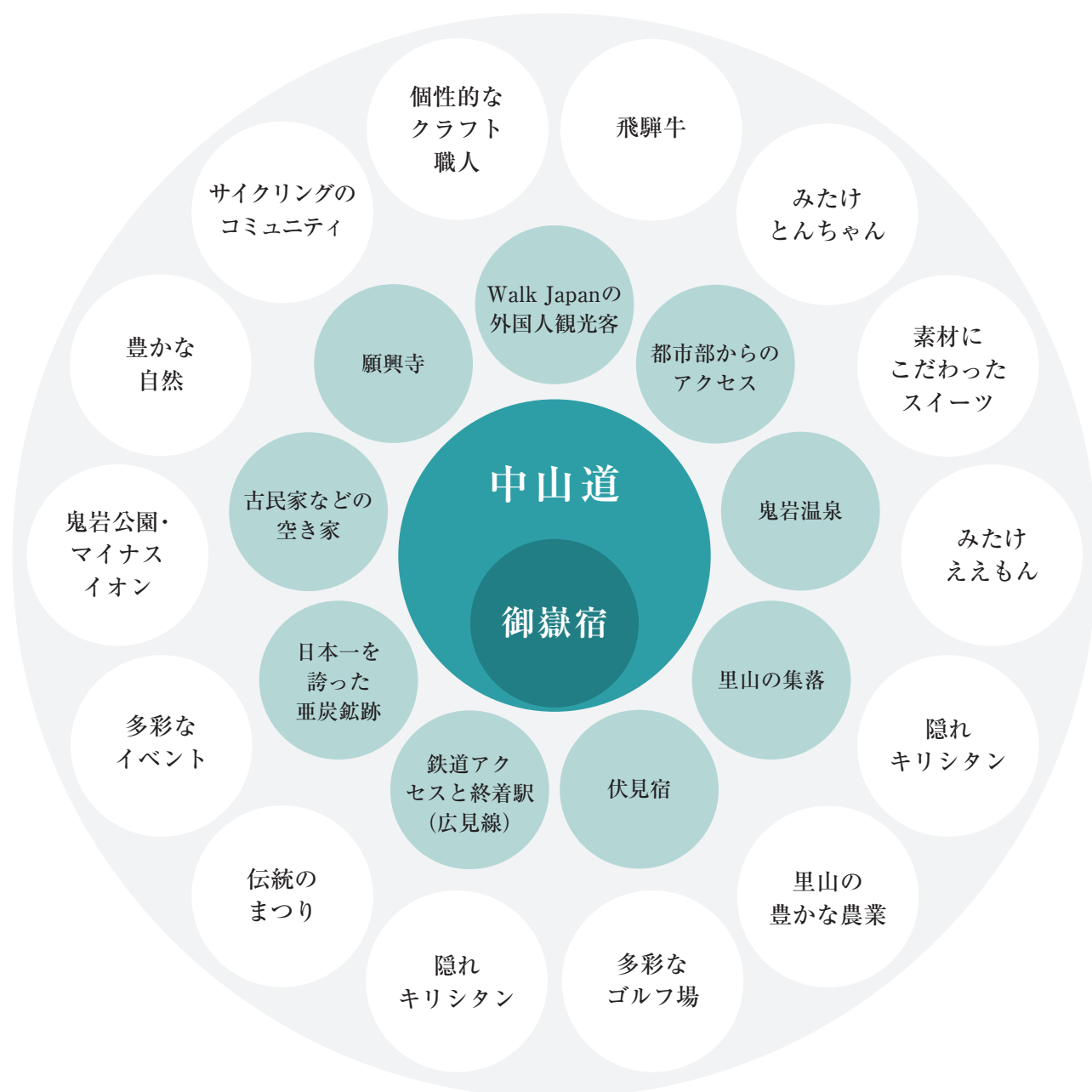
実施日時	2016年12月13日(火) 19:00～21:30	会場	御嵩町役場 北庁舎3階中会議室
講師	松田龍太郎氏 (株式会社オアゾ)	参加人数	12名(飲食店、特産品製造販売の事業者など)
実施内容	当日の様子  ①講演 講師より事例を基に、食の「伝わり方」とは何かについて講演。 ②ワークショップ 参加者と一緒に特産品のアイデアを検討。		
主な意見・検討内容等	・ 良い商品をつくるだけでなく、伝えなければ意味がなく、特産品を世の中に伝えるところまでが「特産品をつくること」である。 ・ 相手の感情を考え、買いたいと思わせるストーリー(ニュース)を作ることが重要。 ・ 商品企画の際は、固定概念を取り外して柔軟に考える。		
主な検討アイデア	「隠れキリシタン」×「チョコレート」 お題は「御嵩町といえば」×「(一般的な)おみやげといえば」で、同じ回答は禁止という中で検討した結果、隠れキリシタンのストーリーや形状などを反映した「隠れキリシタンチョコレート」を商品化したら他にはないユニークな商品になるというアイデアなどが発表された。		





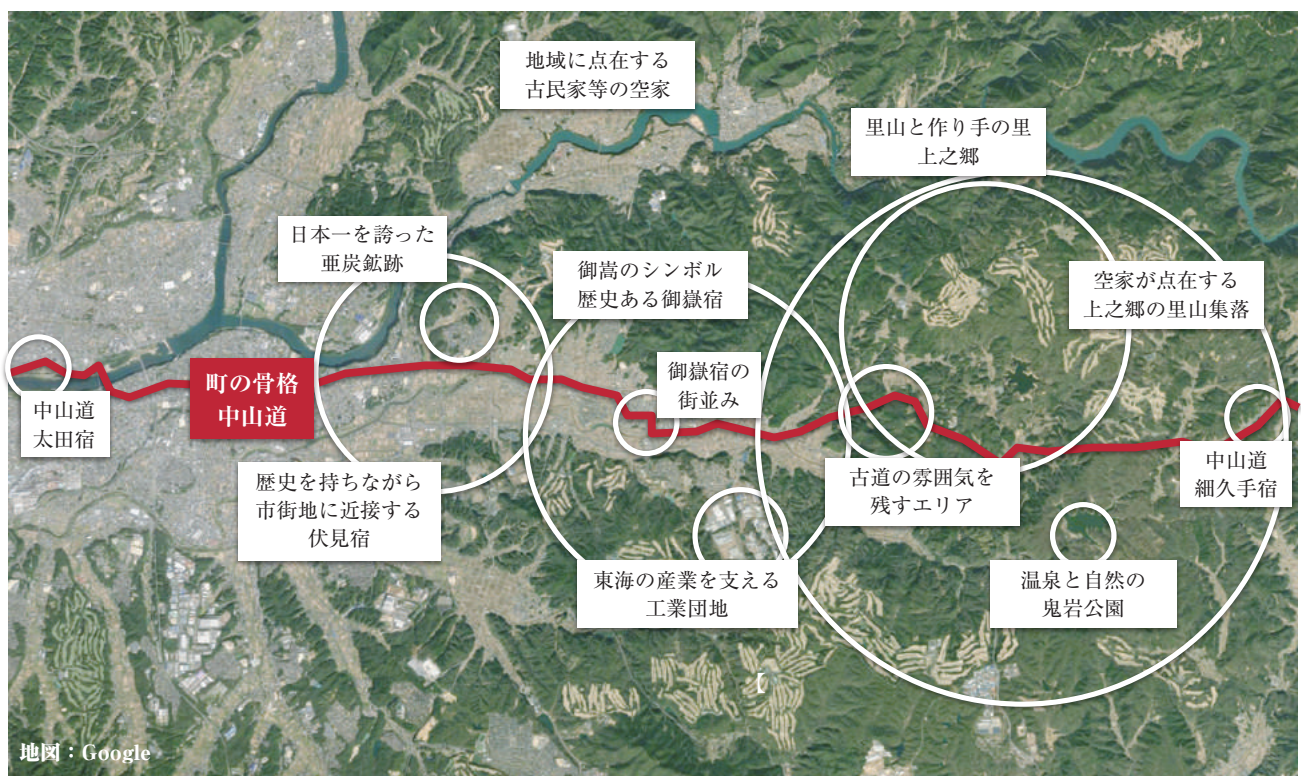
5-1. 地域資源

御嵩町には、中山道が横断し中山道の歴史文化とともに発展した、たくさんの地域資源が点在しています。一方で、これらの資源が分散しており、観光地としてのまとまり（統一イメージ）やストーリーが十分に形成されていない状況といえます。点在する地域資源を下記の概念図にまとめました。やはり、御嵩町の地域資源の軸は「日本の代表的な古道である中山道の歴史・文化・空間」と、中山道の中心的宿場町である「御嶽宿」といえます。この軸をもとに、その他の資源をどう連動させていけるかが今後の鍵となります。

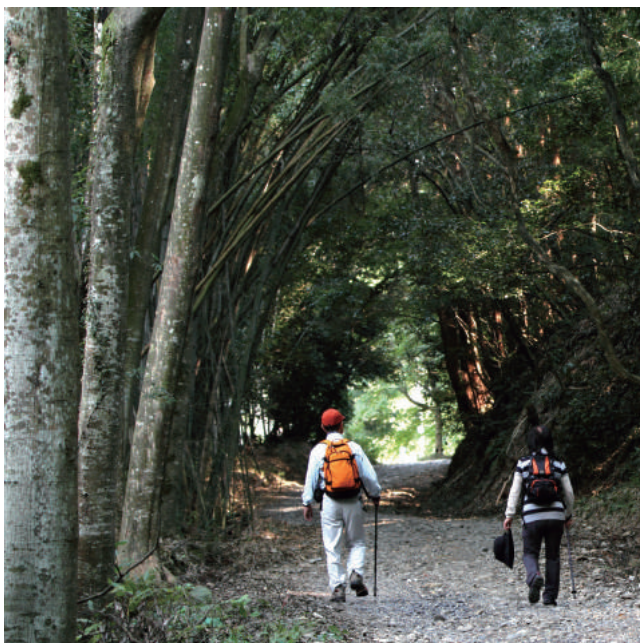


5-2. 地区別特性

現況調査や地域資源分布に基づいて、地区別特性を下記のようにまとめました。中山道を町の骨格とし、様々な特徴あるエリアが点在しています。今後の効果的な施策検討にむけては、エリア毎の特徴を生かしながら、優先順位をつけて検討を進めていく必要があります。



地図：google earth より編集



5-3. 既存イベント

御嵩町では、下記の通り、年間を通じて中山道の歴史や自然を楽しむ様々なイベントが開催されています。

中山道の宿場町 岐阜県 御嵩町	
2016-2017 年間イベントスケジュール	
2月下旬 3月中旬	御嶽宿・伏見宿のひなまつり 「御嶽宿」「伏見宿」界隈の協力店舗にたくさんのお雛様が飾られます。華やかな街道は必見。
5月下旬 6月中旬	みたけの森 花歩き 可憐な「ささゆり」が皆様をお出迎え。スタンプラリーに参加すれば、御嵩町の特産品が当たります。
6月 5日	みたけの森 ささゆりまつり 「ささゆり」の森で出店やダンスイベントなど、楽しいイベントがいっぱい。ますのつかみ取りは子供に大人気。
8月 6日	よってりゃあ、みたけ ～夢いろ街道宿場まつり～ みたけの夏を彩るビッグイベント。夜店や盆踊りを楽しんだ後は、夢花火でしめくくり。
10月 29-30日	鬼岩 岩穴くぐり 2日間限定イベント。巨岩の間をくぐり抜ける、スリリングなアクティビティーは日本でもここだけ。
11月 5日	中山道往来～なかせんどううおーく～ 「御嶽宿」(御嵩町)～「細久手宿」(瑞浪市) 11.8kmをウォーキング。街道沿いにはおもてなしがいっぱい。
2月 5日	鬼岩 福おにまつり 「鬼はうち」のめずらしい掛け声がこだまする。バサラ踊りやリアルな鬼の円舞は必見。
毎月 第3金曜	名鉄広見線御嵩駅前さんさん広場 エコピアガーデン 広見線存続を願いスタートしたピアガーデン。電車ならどれだけ酔っても大丈夫、みんなで楽しもう。
毎月 第1日曜	御嶽宿 宿の市 さんさん広場での出店と「御嶽宿」周辺のお店が割引などでおもてなし。毎月新たな発見があるかも。

出典：御嵩町資料

5-4. 特産品

特産品においては、平成24年から御嵩町を代表する特産品の認定制度「みたけのええもん」がスタートしており、現在16品の商品が認定されています。その他にも在来種の農産物などの特産品があります。

No.	商品名	概要	問合せ先
みたけのええもん(御嵩町特産品認定制度)			
1	みたけ華ずし	御嶽宿の歴史や自然を表現した寿司	みたけ華ずしの会
2	ぽっこり緑茶	上之郷中学校の生徒が栽培する「舐五山(へごやま)茶」を使ったクッキー	あゆみ館
3	御嵩道中焼きおむすび	すべて御嵩の素材でつくられたおむすび	喫茶ぽっかぽか
4	美佐野の中鉄砲アイスクリーム	近郊で栽培の大豆「中鉄砲」のアイス	可児かまど本店
5	やまいもん大福	東濃実業高生が開発し地元和菓子店「長春堂」と連携し商品化した、山芋クリームを使った大福	御嶽宿わいわい館
6	みたけ味噌	地元産の素材を使用して米麹から手づくりでつくる味噌	農家生活改善グループ
7	あずさクランチ	東濃実業高生が開発し地元洋菓子店「ラ・プロヴァンス」と連携し商品化した、「舐五山(へごやま)茶」を使ったクランチ	ラ・プロヴァンス
8	元祖みたけとんちゃん	垂炭坑で働いていた人が食べていた、みたけ味噌を使った豚ホルモン焼き	よってりゃあみたけ
9	みたけからあげ	とりむね肉をみたけ味噌を使って味付けしたからあげ	よってりゃあみたけ
10	ごへだ味噌	みたけ味噌にゴマなどを加えた味噌	農家生活改善グループ
11	みたけ中山道らーめん	ホルモンを使ったラーメン	可児フーズ・ラボ
12	中山道味物語 御嶽宿ええもん御膳	中山道をモチーフに中山道沿いの食材を使用したお弁当	魚邦
13	栗すだれ	地元産の栗を使用した棒状の栗きんとんを柔らかい羽二重餅で巻いたお菓子	御菓子処 長春堂
14	舐五山茶やまいもん大福	やまいもん大福の求肥と白餡に舐五山を練りこんだ大福	御嶽宿わいわい館
15	美佐野の中鉄砲きな粉	近郊で栽培の大豆「中鉄砲」のきな粉	可児かまど本店
16	鬼岩梅酒	国産梅を原料にして鬼岩公園内の施設で熟成させた梅酒	鬼岩湯元館
その他の特産品			
—	中鉄砲	美佐野地区のみで生産される大豆で栽培が難しいが味が濃厚。	
—	舐五山(へごやま)茶	代々引き継がれてきた上之郷中学校の生徒が栽培する緑茶。	
—	謡坂じねんじょ	謡坂(うとうざか)地区で栽培される自然薯。	



5-5. 名鉄広見線

名古屋鉄道は、御嵩町と名古屋市などの他地域を結ぶ鉄道路線であり、地域住民だけでなく観光客のひとつの重要な公共交通手段となっており、貴重な地域資源となっています。

(1) 路線

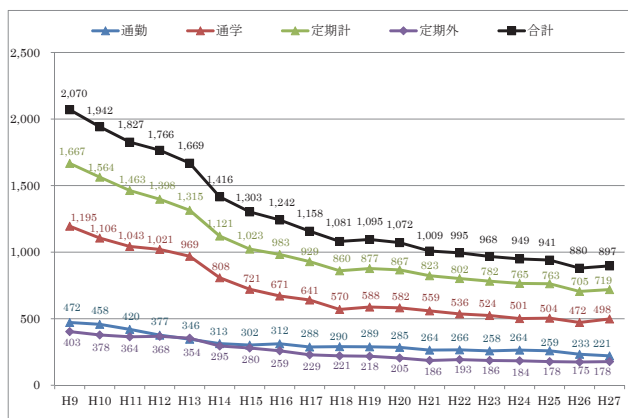
名鉄広見線は、名鉄犬山駅から新可児駅を経て御嵩駅までを結ぶ名古屋鉄道の鉄道路線です。新可児で乗り換えた後の、新可児～御嵩駅間の5つの駅のうち、御嵩町内には3つの駅があり、御嵩駅は終着駅となっています。新可児～御嵩駅間の所要時間は11分。朝6時前頃の始発のから23時半頃までの終電まで、約30分毎に運行しています。



地図：google

(2) 利用状況

名鉄広見線（新可児～御嵩駅間）の利用状況は年々減少の一途をたどっています。名鉄広見線活性化計画（平成25～27年度）では平成24年の利用者を3年間維持するという目標でしたが、達成することはできませんでした。なお、利用者の約半分は通学定期の利用者が占めている状況です。



出典：名鉄広見線活性化協議会 HP (<http://www.town.mitake.gifu.jp/kasseika/index.html>)

		目標	活動期間		
		H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7
輸送人員 (千人/年)	通 勤	263.6	259.1 △4.5	232.7 △30.9	219.3 △44.3
	通 学	500.8	504.4 3.6	472.0 △28.8	499.5 △1.3
	定期外	184.3	177.8 △6.5	175.3 △9.0	178.5 △5.8
	合 計	948.7	941.3 △7.4	880.0 △68.7	897.3 △51.4

備考：各種上段(実数値)、下段(目標に対する増減)
実数値のH25、H26は確定値。H27は事務局による推計値

平成24年度利用者数 948,698千人を3年間維持することとしていたが、3年間維持することができなかった。

出典：名鉄広見線活性化計画（平成28～30年度）

(3) 沿線活性化

御嵩町、可児市、八百津町の3市町村を中心に名鉄広見線活性化協議会を設立し、名鉄広見線（新可児～御嵩間）の沿線活性化に取り組んでいます。その中で作成されている「名鉄広見線活性化計画」の平成28～30年度の3カ年計画によると、利用者の拡大に向けて3つの目標・数値目標、目標達成のための施策が設定されています。計画の中では、地域外（観光）からの利用者の増加を目標（観光で訪れたい人11.3%増）としています。

3つの目標と目標値

- | | | |
|--|---------------------------------|--|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">1</div> | 地域外からの利用を増加させる | → 名鉄広見線沿線地域へ観光で訪れたいと思う人の割合11.3%を増加させる |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2</div> | 地域内の利用促進を図る | → 地域内の利用促進を図る活性化策により目標とするカウント数 10,430カウントを達成する |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">3</div> | 地域にとって必要な社会インフラである認識を高める | → 名鉄広見線が存在する価値を重要と思う人の割合70.4%を増加させる |



5-6. 広域観光圏

御嵩町は、東海地方の拠点都市である名古屋市から良好なアクセスを持つ位置にあり、リニア中央新幹線が開通予定の、岐阜県駅(中津川市)から車で約50分の位置です。広域でみると周辺には国宝犬山城や県内一の集客を集める土岐プレミアム・アウトレット、地理的に近接する花フェスタ記念公園など、周辺には魅力あるエリアが点在しています。しかし、現在はこれらの地域との連動が少なく、周遊ルートなどの連動が必要な状況にあります。



地図：google



6

6. 観光基本計画の検討に向けて

6-1. 現状・課題の整理と今後の方向性

計画の検討に向けて、調査結果と検討の方向性を下記にまとめました。

計画策定の背景		・観光産業が新しい日本の産業となる可能性がある。 ・総合計画など町の計画においても観光は重要要素として位置づけられている。 ・政府が歴史的資源を活用した観光まちづくりを重要政策として進めている。 ・その他、国や県などの広域観光戦略・計画でも、地域連携による外国人観光客誘致や観光の主要産業化などを掲げている。
市場の動向		・国内観光客数は横ばいから減少。外国人観光客数は伸び率が増加し、今後の可能性が大きい。 ・外国人観光客は滞在日数も消費額も国内観光客より大きく、歴史体験に興味を持っている。 ・クリエイティブ層のテレワークなど新しい働き方が注目されている。 ・すでに外国人観光客の高級ツアーが組まれ、市場価値が確認されており、評価も高い。
現状調査・地域資源	御嵩町の強み	・名古屋市から1時間程度の良好なアクセス。周辺市町に魅力的な観光地がある。 ・日本の代表的な古道「中山道」とその宿場町の歴史・文化・空間が残る。 ・豊かな里山や鬼岩温泉、鬼岩公園などの観光資源がある。 ・町民の地域への愛情が強く、生活環境の満足度が高い。 ・歴史的建造物の空き家などが、活用可能な地域資源として残っている。
	御嵩町の課題	・人口減少とともに高齢化、年少・生産人口の減少も進む。 ・製造業に次ぐ新しい産業と歴史文化に基づいた暮らしの向上の必要性。 ・地域資源が分散し、観光地としての魅力やストーリーが明確でない。 ・若手人材（プレイヤー）が不足。 ・地域資源をつなぐ地域内交通手段の不足と名鉄広見線の利用者減少。 ・町内で町民（特に若者）のための交流・文化施設（カフェ・ホール等）が不足。



計画検討の方向性

- ①地域資源である中山道や宿場町を軸とした統一した観光戦略（コンセプト）の設定
- ②観光を次世代の産業ととらえ、明確な計画の方向性、顧客ターゲット、ポジショニング、目標数値（産業規模等）の設定
- ③具体的な計画推進施策の設定
- ④計画実現のための優先課題となる重点施策の設定
- ⑤計画推進を担う実施体制の設定



7

7. 観光基本計画

7-1. 基本コンセプト



これまでの現状調査などの検討を踏まえ、御嵩町観光基本計画の基本コンセプトを下記の通り定めます。御嵩町の最大の観光資源である「中山道」を軸としながらも、数ある中山道の宿場町の中から御嵩町を観光客が選んで来訪していただくためには「他にない突出した魅力」が必要です。

本コンセプトではその魅力を「日本一、中山道に身を染められる場所」と定義し、景観などの観る観光の魅力だけでなく、伝統的な中山道の歴史文化の中に実際に暮らして(泊まって)よし、歩いてよし、休んでよしの「感じる観光」の形成を目指します。

【御嵩町観光基本計画 基本コンセプト】

日本一、中山道に身を染められる「宿場町」

—暮らしてよし、歩いてよし、休んでよし。時代を超えて日本の古道の暮らしを体験できる町—

東西に中山道が横断し、中山道とともに暮らしてきた御嵩町。

時代とともに変化しているが、その暮らしに脈々と残る中山道の歴史文化。

従来からの観る観光ではなく、感じる観光へ。

中山道の暮らしや歴史文化に身を染め、それらを知ることによって未来を考える場となる。

それが御嵩町の目指す新しい観光の形です。

7-2. 顧客ターゲット

御嵩町の観光で狙うべき顧客ターゲットは、古道の歴史などに関心のある欧米等の外国人観光客をメインターゲットとし、国内(東海地方)観光客、クリエイティブワーカー、地域住民をサブターゲットとします。

ターゲット層の分類	ターゲット層の概要	御嵩町の利用イメージ例	休日／平日	消費額
メインターゲット				
外国人(欧米等)観光客	名古屋市などから一足伸ばすか、昇龍道や周辺の観光地などに移動する途中の欧米等の外国人観光客。日本の古道や歴史文化に深く触れたいと考えている人々。	・1～3泊以上 ・宿場町ホテル ・カフェ、飲食店 ・お土産店 ・中山道体験(日本的体験) ・里山アクティビティ	平日中心	高い ↑
サブターゲット				
国内(東海地方)観光客	名古屋市を中心とした国内観光客。若者から老年層までの夫婦やグループ。少し足を伸ばし日本の歴史文化をゆっくりと楽しみたいと考えている人々。	・日帰り～1泊 ・宿場町ホテル ・カフェ、飲食店 ・お土産店 ・宿場町でのアクティビティ(日本的体験)	休日利用中心	
クリエイティブワーカー	首都圏や東海地方近郊に住むITやデザインなどのリモートワーク(在宅勤務)が可能なクリエイティブワーカー。中～長期で滞在し歴史ある街で仕事をしたいと考えている人々。	・オフィス ・合宿利用(長期滞在) ・移住定住(シェアハウス等) ・カフェ、飲食店 ・食料品店	平日利用中心	
地域住民	周辺に住む地域住民。中山道を中心とした歴史資源は地域の誇りなので、昔のようにもっと賑わって豊かで暮らしやすい街になって欲しいと考えている人々。	・居住 ・職場 ・食料品店 ・カフェ、飲食店	[日常] 平日利用 [レジャー] 休日利用	低い ↓



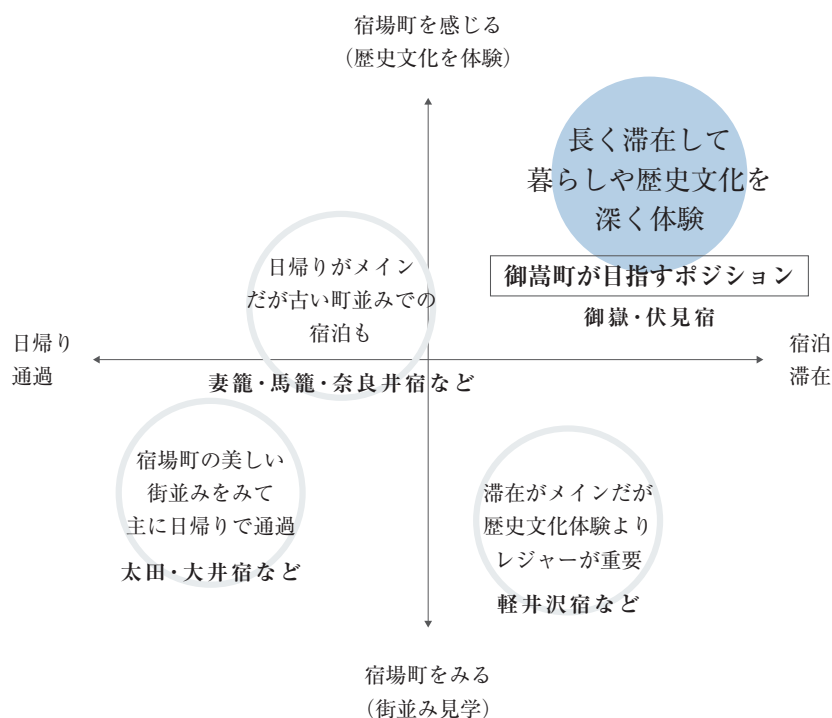
7-3. ポジショニング

基本コンセプトは「日本一、中山道に身を染められる宿場町」と設定したことから、中山道の69ある宿場町の中で、御嵩町内宿場町のポジショニングを明確化する必要があります。御嶽宿と伏見宿は、中山道の他の宿場町と比較して、きれいな景観を観る観光地ではなく、「歴史文化体験を中心として、宿泊などでゆっくり滞在しながら、中山道の歴史文化を感じる」ポジショニングを目指します。

その中で、御嶽宿は御嵩町の中心の拠点地区として観光施設や店舗など、伏見宿は歴史あるオフィスや居住エリアなどとして、御嵩町の「他にはない新しい宿場のあり方」を目指します。



出典：熊谷デジタルミュージアム（熊谷市立江南文化財センター）HP（<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/>）



7-4. 将来の目標設定

御嵩町観光基本計画の目標設定においては、従来の「観光客数」の指標に捉われずに、町内の経済や暮らしへの波及効果を重視して設定します。

【目標設定の考え方】

観光客数から町内の経済・暮らしへの波及効果へ

将来の目標設定は、従来の観光客数だけではなく、御嵩の価値に共感していただいた方に、長く滞在して楽しんでもらい、少人数ながら高単価な、歴史文化を体験する観光スタイルとし、観光で生み出す経済波及効果や暮らしの向上などを指標とする。



【現状】

観光客数
約51万人

【5年後の目標（平成33年度時点）】

●経済（新しい観光市場として既存からの増加分）
顧客：歴史文化を楽しむ滞在型の高単価顧客
客数：年間21,900人
- 宿泊客 年間10,950人（30人/日）
- 日帰客 年間10,950人（30人/日）
日数：日帰り～3泊
単価：宿泊客 3万円/人（宿泊1.5万、飲食・体験1.5万）
日帰客 0.5万円/人（飲食・体験0.5万）
市場：約3.8億円/年

●暮らし
・観光が一つの産業として確立され
経済が活性化し雇用を創出する
（町民観光受容度など）
・御嵩の歴史文化が守られ、町民が
誇りを持って安心して暮らすこと
ができる（目標 活用拠点施設：1
軒／空き家の改修：5軒）
・町外からの移住者や事業者が増加

※上位計画との比較

第五次総合計画 【観光入込客数】 H29年度 51万人 → H33年度 53万人
本計画 【観光入込客数】 H29年度 51万人 → H33年度 53.19万人



かしわ



8

8. 計画推進施策

8-1. 施策体系

御嵩町観光基本計画を戦略的に推進するための4つの基本方針と10の施策を設定します。

基本方針1: 中山道を軸とした魅力ある観光地づくり

【施策1-1】 特性を生かした地区整備	○町内を御嵩・中地区、上之郷地区、伏見地区、鬼岩公園地区の4地区に分類し、各地区の特性を生かした地区整備を実施 ○必要に応じた各エリア内の環境・拠点整備
【施策1-2】 観光戦略拠点エリアの整備	○中山道の歴史文化、街道の町並み、空き家の古民家などの歴史地域資源を活用した戦略拠点エリアを整備 ○暮らしと歴史文化を支える骨格である「中山道」沿道の環境整備 【拠点エリア①】御嶽宿の整備(歴史を生かし、観光・宿泊・業務・商業地区などを組み合わせた新しい宿場町を形成) 【拠点エリア②】中山道拠点の整備(中山道を楽しむ拠点施設) 【拠点エリア③】里山拠点の整備(里山集落全体を生かした観光拠点)

基本方針2: 日本一の中山道体験を提供するための環境づくり

【施策2-1】 中山道滞在プログラムの開発	○中山道に身を染め生活や歴史を感じる体験プログラム開発 ○宿場町の新しい滞在・観光スタイルの創出(町家宿泊・店舗、寺社仏閣の体験観光など) ○里山集落やクラフトなど中山道と連動する周辺エリアにおける新しい観光プログラムの開発 ○食の魅力の創出(飲食店・食材・特産品(みたけのええもん)など) ○観光経済効果に結びつくイベントづくり ○外国人受け入れ態勢の強化(多言語対応 など)
【施策2-2】 新しい中山道周遊の創出	○中山道に身を染める多様な周遊ルートの設定
【施策2-3】 複合的な交通網の利活用	○地域内を動き回る利便性の高い交通機能の連携(名鉄広見線・ふれあいバス・自家用車・サイクリングロード・遊歩道など) ○名鉄広見線沿線の活性化に向けた沿線魅力づくり
【施策2-4】 広域観光連携の推進	○周辺市町村や観光資源と連携した広域観光圏の整備 ○前後の宿場町との連動した整備環境づくり

基本方針3: ターゲットに明確に伝える情報発信

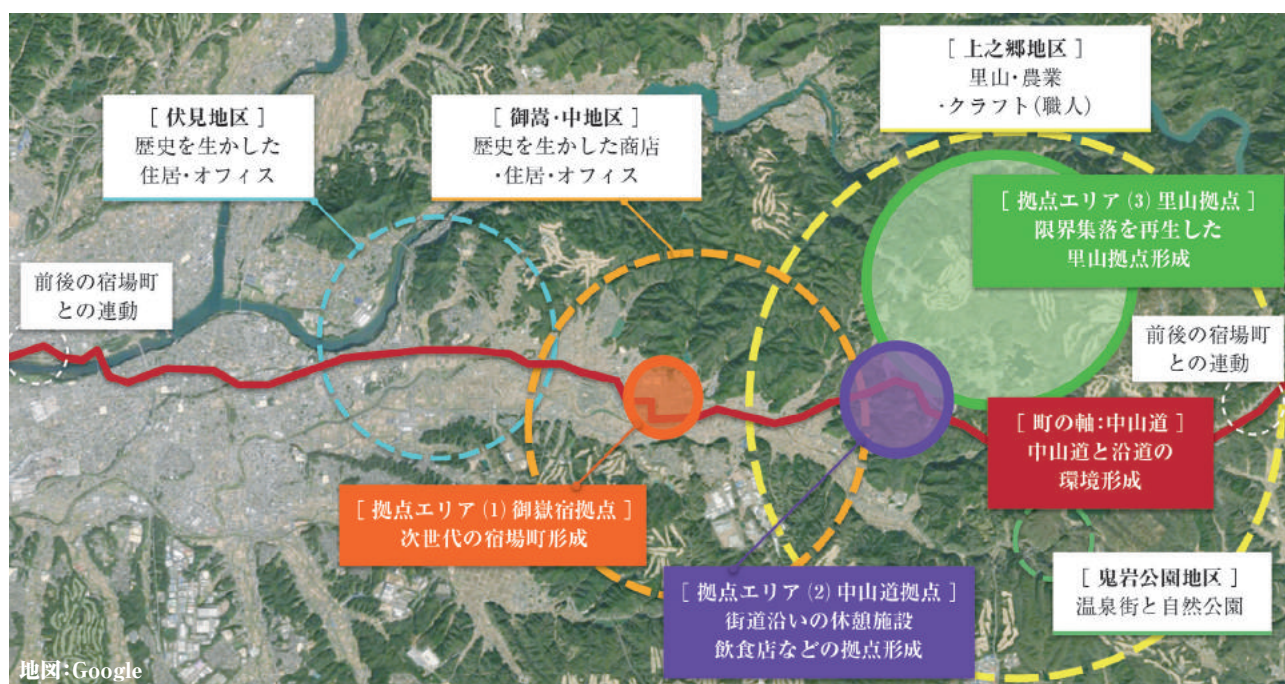
【施策3-1】 情報発信内容の明確化	○御嵩町の観光コンセプトに沿って、顧客ターゲットや顧客に伝えるべき「他地域とは違う御嵩町の価値(情報内容)」を明確化
【施策3-2】 情報発信手法の確立	○顧客ターゲットに応じた効果的な情報発信手法の確立

基本方針4: 計画実施・推進体制

【施策4-1】 事業主体の確立	○地域の観光やまちづくりを時代の変化に対応しながらトータルでマネジメントし、事業を行う地域まちづくり会社(ピークル)の設立をサポートする体制づくり
【施策4-2】 事業検証・推進体制の確立	○市場状況に沿った事業検証と推進体制の確立

8-2. ゾーニング計画

施策の実現に向けて、町内の各地区の地域特性を考慮したゾーニング計画を設定しました。



町の軸	御嵩町の観光・歴史文化・暮らしを支える骨格となる資源＝中山道
地区	町内をエリア分けし、地区ごとの特徴と目指す方向性を定義
拠点エリア	観光計画の実現に向けて拠点となる、優先的に整備する重点エリア

地図：google earth より編集



8-3. 各地区の整備方針

ゾーニング計画に基づく、それぞれの整備方針を設定しました。

種別	名称	方針
町の軸	中山道	○御嵩町の暮らしと歴史・文化を支える骨格(町の軸)として、中山道や沿道の環境整備を実施。 ○史跡認定と連動した整備方針の検討。
地区	御嵩・中地区	○御嵩町の中心である御嵩・中地区は、御嶽宿拠点エリアを中心に整備しながら、地区内は歴史を活かした商店・住居・オフィスなどに活用。 ○将来、工場見学・体験など東海地区の工業を支える技術や工場を観光資源として活用する方向性を検討。
	拠点エリア①: 御嶽宿拠点 (名鉄広見線 御嵩駅)	○御嶽宿の中でも御嵩駅周辺を、観光・業務の拠点として位置付け、先行的に整備を実施。 ○次世代の宿場町として、観光・宿泊・業務・商業などを組み合わせた新しい宿場町を形成。
	上之郷地区	○里山の自然環境が残り、クラフトや農業のプレイヤーが多い上之郷地区はその環境を活かし、クラフトや農業などの事業者を積極的に誘致・サポートし、地域の魅力創出や観光につなげる。
	拠点エリア②: 中山道拠点 (石畳・牛の鼻欠け坂周辺など)	○中山道沿道の歴史的・景観的に特徴的なエリアは観光拠点エリアとして整備。 ○街道沿いの観光休憩施設や店舗など、中山道を楽しむ施設の整備を実施。
	拠点エリア③: 里山拠点 (里山集落など)	○人口減少が著しい里山集落を再生し、拠点エリアとして整備。 ○日本の里山のもつ豊かさや、クラフトや農業などを観光と結びつけ、新しい里山の可能性を検討。
	伏見地区	○街道の歴史が残り都市に近い伏見地区は、歴史を活かした住居やサテライトオフィスなどの業務機能を整備した住居・業務エリアとする。
	鬼岩公園地区	○従来のイメージにとらわれず、デトックスやアウトドアなど、鬼岩公園や鬼岩温泉の新しい活用方法を検討。
周辺環境等	前後の宿場町との連動 (細久手宿、太田宿)	○前後の宿場町と連動し、中山道として連続的な魅力を創出。
	名鉄広見線沿線	○駅舎の利用や沿線各駅周辺の魅力づくり(宿泊施設・店舗・オフィス等)を沿線全体で実施。
	亜炭坑跡	○亜炭坑跡の歴史資源活用の可能性について検討。
	周辺観光資源との連動	○八百津町や可児市などの隣接市町の観光資源と連携をし、周辺地域としての魅力を創出する。 ○美濃焼や花フェスタ記念公園、関刃物のクラフトなど、県内にとどまらず国宝犬山城など広域での連動を考慮する。



9

9. 重点整備エリア

9-1. 町の軸整備

町の軸整備では、中山道を御嵩町の観光、歴史文化や暮らしを支える「町の軸」として捉え、歴史を残しながらも風情を感じることで沿道の景観環境整備や拠点整備などを行う。

さらに、中山道を昔のコスチュームで歩ける仕組みなど、歴史文化を身をもって感じることで沿道のソフトプログラムも検討する。

名称	方針	実施イメージ
【町の軸】 中山道	○御嵩町の暮らしと歴史・文化を支える骨格として、中山道や沿道の環境整備を実施。 ○史跡認定と連動した整備方針の検討。	・歴史を感じる中山道の沿道整備。 ・魅力的な宿場町の整備(御嶽宿・伏見宿) ・中山道らしい拠点施設の整備(休憩・景観スポット等) ・歴史に身を染める体験プログラムの整備

9-2. 拠点エリア整備

拠点エリア整備では、3つのエリアで中山道や里山の魅力を形成し、滞在体験することのできる拠点整備を行う。

名称	方針	実施イメージ
拠点エリア① 御嶽宿拠点	○御嶽宿の中でも御嵩駅周辺を、観光・業務の拠点エリアとして位置付け、先行的に拠点整備を実施。 ○次世代の宿場町として、観光・宿泊・業務・商業などを組み合わせた新しい宿場町を形成。	・御嵩町の重要拠点として、空き家の古民家や観光施設を活用した滞在型の「新しい宿場」としての機能を整備。 －宿泊施設 －歴史ライブラリーカフェ －情報&ウォーキングステーション －体験受付(コスプレ、里山ツアー) －店舗(レストラン、物販店) －クラフト工房(クラフトビール、工芸) －参拝施設 －コワーキングオフィス、シェアハウス －駐車場・トイレなどの便益施設
拠点エリア② 中山道拠点 (石畳・牛の鼻 欠け坂周辺など)	○中山道沿道でも、歴史的・景観的に特徴的なエリアは観光拠点エリアとして整備。 ○街道沿いの観光休憩施設や店舗など、中山道を楽しむ拠点施設の整備を実施。	・古道の歴史的な風情が残る場所を中山道の顔となる休憩施設や飲食店、観光拠点などの拠点整備を検討する。 －観光拠点・峠の茶屋 －フォトスポットとなる景観整備 －鼻欠け坂体験(牛と一緒に登る) －駐車場・トイレなどの便益施設
拠点エリア③ 里山拠点 (上之郷の里 山集落など)	○人口減少が著しい限界集落の里山集落を再生し、拠点エリアとして整備。 ○日本の里山のもつ豊かさや、クラフトや農業などを観光と結びつけ、新しい里山の可能性を検討。	・里山集落の全体を活用し、宿泊、店舗、農業、クラフトなどの地域資源を活かした里山拠点整備を検討する。 －集落型宿泊施設 －店舗(レストラン、物販店) －移住者用住宅



10-1. 推進方針

計画の推進にあたっては官民連携は元より、計画を実施する中間支援組織の形成と施策実施スケジュールの設定が必要です。

【御嵩町観光基本計画 推進方針】

① 官民連携の役割分担

- ・官民が連携して役割を明確に分担しながら、観光基本計画の目標の実現に向けて施策や事業化をともに目指す。

② 中間支援組織の必要性

- ・官民連携実現のため、「歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース」の動きと連動した民間から観光まちづくりに取り組む「地域まちづくり会社（ビークル）」などの中間支援組織が必要。
- ・中間支援組織が中心となって、地域全体をマネジメントしながら、町民とともに観光を新しい産業として事業化を進めていく。
- ・行政では、ビークルの起業・運営支援を実施する。

③ 施策実施スケジュールの設定と継続的な進捗管理

- ・施策実施スケジュールを明確に設定し計画を具体的進めていくとともに、設定したスケジュールを随時確認しながら継続的に進捗管理し、計画の実現に向けて必要に応じて改善していく取り組みが必要。

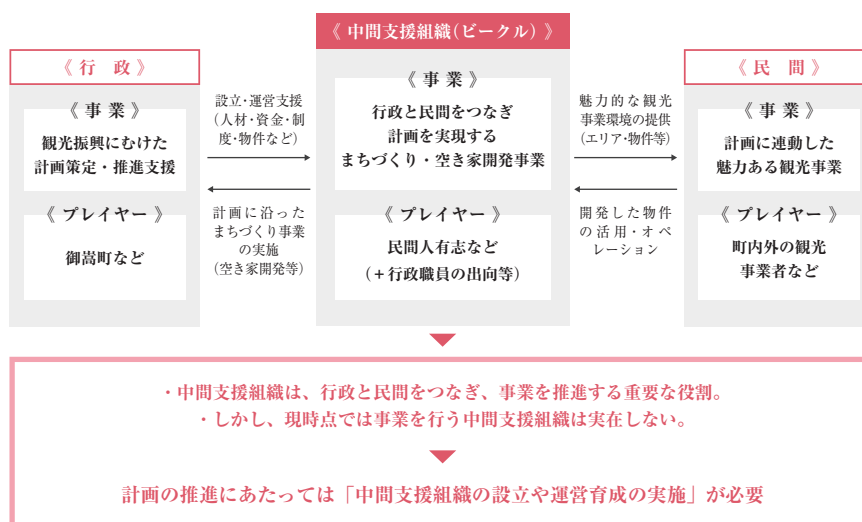


10-2. 官民連携の役割分担

計画の推進に向けては、官民連携しながら、それぞれ役割分担をして進めていく必要があります。また、民間の中間支援組織（ビークル）がその中間に立って調整推進する役割を果たします。

しかし、現時点では事業を担う中間支援組織は実在していない状況です。今後の計画推進に向けては、中間支援組織（ビークル）の設立や育成・運営支援が重要となります。

	行政	中間支援組織（ビークル）	民間
役割	- 計画の策定と推進 - 計画に基づいた公共施設の整備や情報発信 - 中間支援組織の起業・運営支援 - 計画推進のための進捗管理と推進支援	- 空き家開発やまちづくり事業など、行政と民間をつなぐ計画推進のための事業の実施 - 官民連携の調整や推進	計画に基づく、官民連携した魅力ある観光事業の展開



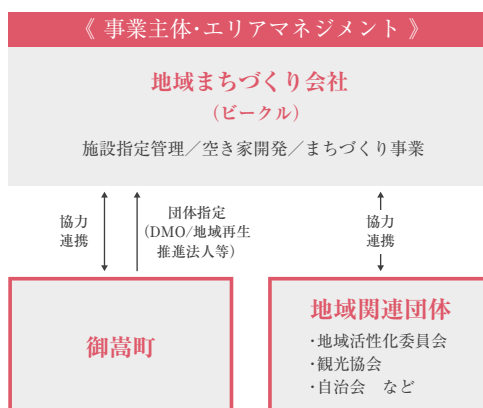
10-3. 中間支援組織

(1) 中間支援組織のあり方

中間支援組織は、DMOや地域再生推進法人などの公的な認定を目指します。独立した事業展開を行うための民間団体ですが、行政や地域団体と連携しながら、計画の実現を目指し事業展開します。

組織の位置づけ

行政から独立した法人：DMOや地域再生推進法人の指定を目指す



基本方針

やる気ある事業者（店舗、飲食店、宿泊施設等）、地域団体と連携し「日本一中山道に身を染められる宿場町」を目指して魅力と活力を生み出すための取り組みを実施する。

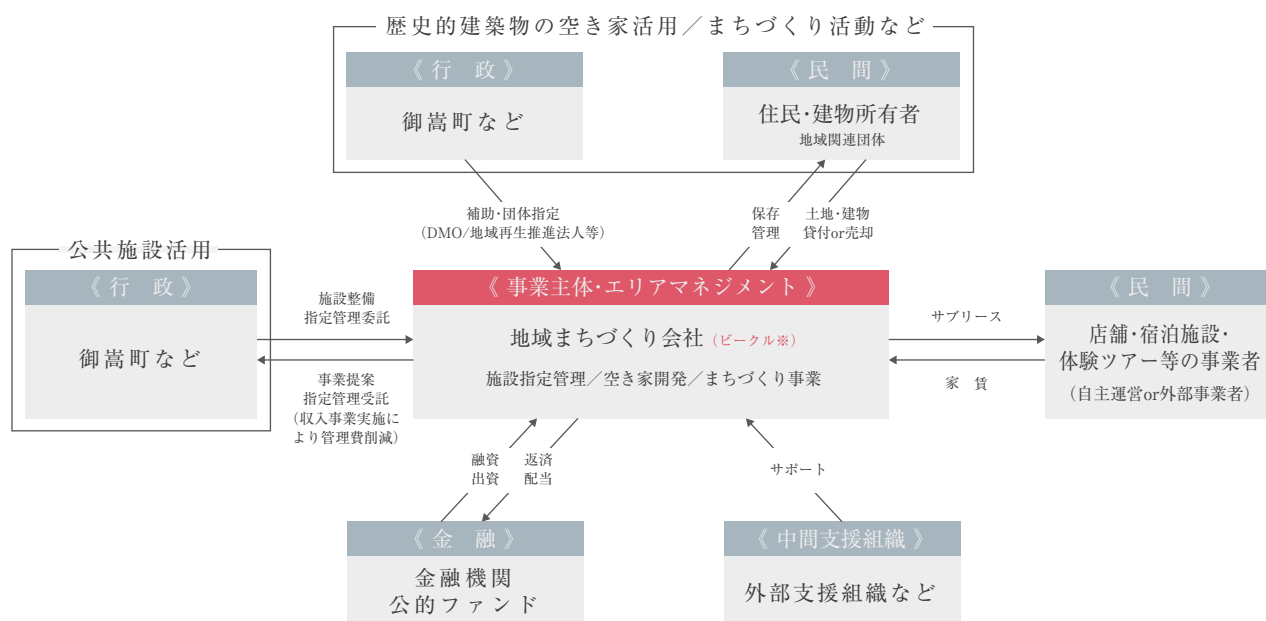
組織の考え方

- 自治体とは独立した民間の団体とする。
- 関連団体の充て職ではなく、事業を実際に実施する少人数のチームとする。メンバーは地域の有志を中心に必要によって外部からの人材も受け入れる。自治体とは独立した民間の団体とする。
- DMOや地域再生推進法人の指定や地域団体と連携など、地域づくりを中心的に担う団体として、地域の一定の理解と認識を得る団体とする自治体とは独立した民間の団体とする。
- 随時、団体設立に必要な手続きを行う。

(2) 中間支援組織の体制

中間支援組織(ビークル)のポジションや役割は、御嵩町などの公共団体と、事業者や住民、物件所有者、金融機関などの民間をつないで、エリアマネジメントやまちづくり事業を行う団体です。

ビークルとは、「乗り物」という意味で、同じ理念でまちづくり事業を展開するために、まちづくりプレイヤーたちが乗り合わせる中間事業者としての会社(=乗り物)のことです。



※「ビークル」とは「乗り物」という意味で、同じ理念でまちづくり事業を展開するために、まちづくりプレイヤーたちが乗り合わせる、中間事業者としての会社(=乗り物)のこと。

※ 観光まちづくりを実施するにあたり、想定される支援活動内容を記載しています。

施策毎の計画推進スケジュールは、下記の通りです。

74

計画年度		H29	H30	H31	H32	H33
基本方針2:日本一の中山道体験を提供するための環境づくり						
【施策2-1】 中山道滞在プログラムの開発	○中山道に身を染め生活や歴史を感じる体験プログラム開発	↔				
	○宿場町の新しい滞在・観光スタイルの創出(町家宿泊・店舗、願興寺観光など)	↔				
	○里山集落やクラフトなど中山道と連動する周辺エリアにおける新しい観光プログラムの開発			↔		
	○食の魅力の創出(飲食店・食材・特産品(みたけのええもん)など)	↔				
	○観光経済効果に結びつくイベントづくり(既存・新規含む)	↔				
	○外国人受け入れ態勢の強化(多言語対応 など)	↔				
【施策2-2】 新しい中山道周遊の創出	○中山道に身を染める多様な周遊ルートの設定	↔				
【施策2-3】 複合的な交通網の利活用	○域内を動き回る利便性の高い交通機能の連携(遊歩道・名鉄広見線・ふれあいバス・自家用車 など)	↔				
	○名鉄広見線沿線の活性化に向けた沿線魅力づくり	↔				
【施策2-4】 広域観光連携の推進	○周辺市町村や観光資源と連携した広域観光圏の整備				↔	
	○前後の宿場町との連動した整備環境づくり			↔		

計画年度		H29	H30	H31	H32	H33
基本方針3:ターゲットに明確に伝える情報発信						
【施策3-1】 情報発信内容 の明確化	○御嵩町の観光コ ンセプトに沿って、 顧客ターゲットや 顧客に伝えるべき 「他地域とは違う御 嵩の価値(情報内 容)」を明確化					
【施策3-2】 情報発信手法 の確立	○顧客ターゲット に応じた効果的な 情報発信内容・手法 の確立					
基本方針4:計画実施・推進体制						
【施策4-1】 事業主体(ビー クル)の確立	○地域の観光やま ちづくりを時代の 変化に対応しなが らトータルでマネ ジメントし、事業を 行うまちづくり団 体(まちづくりビー クル)の設立					
【施策4-2】 事業検証・推進 体制の確立	○市場状況に沿っ た事業検証と推進 体制の確立					





御嵩町観光基本計画

平成29年度～平成33年度

平成29年3月策定

〈編集発行〉

御嵩町総務部まちづくり課まちづくり推進係

電話:0574-67-2111

FAX:0574-67-1999

メール:matidukuri@town.mitake.lg.jp